

「地活協」で地域よくなるか！

各校下で旗揚げ、期待と不安の運営へ

「自らの地域の事は自らの地域が決める」をキャッチフレーズに、各小学校下でこのほど「地域活動協議会」(地活協)が旗揚げしました。橋下市長が主導する「市政改革」の一環で、これまで各団体(地域振興会など)へ個別に下ろされていた補助金を、この新しい組織がまとめて受け取り、事業(避難訓練など)について振り分けるというものです。五月に行なわれた幾つかの運営委員会(最高決議機関)を見てみました。〈5頁に関連記事〉

周知これから、補助金やりくり、先行地域は意欲的

これらの運営委員会では新年度の予算や事業計画などが議論され、「これからはこの組織を活用して地域活動を活性化していくぞー」という

意気込みが感じられました。同時に、①役員自身がこの組織について十分に理解していなかった②アドバイザー(港区まちづくりセンター支

部)でさえ説明に苦労する内容があった③活動費を補つたとして「コミュニケーションビジネス」(利益を地域へ還元する)目的で地域住民がビジ

ネスの手法で行なう事業が奨励されていたなど、今後の運営に不安や懸念を抱かせられる現象も見られました。

◆田中校へ

このうち田中・夕凧地区をエリアとする「田中地域活動協議会」は五月十八日夜、夕凧会館で運営委員会を開きました。田中地活協の構成団体である田中地区社会福祉協議会をはじめ、地域振興会、女性会、子ども会など各団体の役員クラブ約五十人が「運営委員会」として出席しました。

◆民主的な組織運営と会計の透明性を

冒頭、近江隆司会長（田中地区社会福祉協議会会長を兼ねる）は「地域活動の形が新しくなった。私自身よく分からない点もある。皆さんの意見をよく聴きながらやっていきたいのでよろしく」と呼びかけ、田端尚伸港区長は「民主的な組織運営・会計の透明性を確保いただきたい。また、地活協の運営に職員が直接関わらず港区まちづくりセンター支部が中心となって運営支援を行なうことになった。地域主体のまちづくりの方針はこれまでと同じ。区政会議の意見を反映した区政運営を横糸に、地活協の

↑田中地域活動協議会の運営委員会で地活協の

意義を述べる田端区長（右）、丁寧な論議が交わされた港晴地域活動協議会の運営委員会①



よる地域独自の取り組みを縦糸に、より強いネットワークを」と強調しました。

◆補助金使って福祉などの事業

このあと田中地活協の今年度予算や活動計画が論議されました。その中では、①区役所から約一九六万円の補助金が活動費として支給される②それを補つたため田中社協などから四十数万円を回す③それらを使って「社会福祉」「防犯・防災・環境」「青少年」「総務・広報」の四部会が「いきいきサロン」「夜回り子ども見守り隊」「学校体育施設開放事業」「広報事業」などの事業を行なう一等の提案が行なわれました。

◆独自のホームページ開設も

これに対して参加者から「地活協の予算に社協のお金加わっているのはなぜか」との質問があり、会計担当役員から「補助金だけでは充分な活動ができないので、各地域で独自に補うことは認められている。他地域や来年のことは分からない」との回答がありました。

その上で、提案事項はすべて参加者の拍手で承認され、最後に広報担当者が「独自のホームページ開設」を表明するなどして地活協のイメージをアピール、運営委員会は終了しました。

◆港晴校へ

港晴地区をエリアとする「港晴地域活動協議会」は五月十八日夜、港晴東会館で運営委員会を開きました。港晴地活協の構成団体である港晴地区社会福祉協議会、地域振興会、老人クラブなど各地域団体から二八八人が「運営委員会」として出席し、田端区長も挨拶に駆け付けました。

◆独自の資金についても論議

会議では上西紀明会長（港晴地区社会福祉協議会会長を兼ねる）を議長に、港晴地活協としての今年度の活動予定などが論議されました。

この中では、①区役所から約「四八万円の補助金が活動費として支給される②それを使って「地域福祉」「子ども青少年」「総務広報」「まちづくり防災防犯」の四部会が「いきいきサロン」「ふれあい喫茶」「手話講座」「避難訓練」などの事業を行なう」等の提案が行なわれました。

また、同席したアドバイザー（港区まちづくりセンター支部）からは「この運営委は総会にあたるので議事録を作るように」「補助金だけでは活動を充分に賄えないので独自に移べ^{まかせ}とも考えよう」「イベント打ち上げの飲み食いに補助金は使えない」などの助言がありました。

これを受けて「揃いのTシャツを作って気持ちを一気に活動しよう。買ってもらえば活動資金にもなる」などの意見が出されました。

◆校下社協は消える？

また「各校下の社協は残るのか」との質問に、ある役員は「消える」と答えましたが、アドバイザーは「説明しにくい事業だ。お金補助金の流れは地活協になるが、名前組織は残る。区全体の社協（ひまわり）はこれまで通り活動する」と答へ、何が納得を得ていました。

↑和気あいあいと進められた南市岡地域活動協議会の運営委員会④と、活発な議論が印象的だった市岡地域活動協議会の運営委員会⑤



その上で、提案事項はすべて参加者の拍手で承認され、運営委員会は終了しました。

市岡校下

市岡地域をエリアとする「市岡地域活動協議会」は五月二十五日夜、市岡会館で運営委員会を開きました。市岡地活協の構成団体である市岡連合振興町会をはじめ、女性会、子ども会、老人会、商店街など各地域団体を出身母体とする二十数人が「運営委員」として出席しました。

◆モデル地区として更に前進

冒頭、武智虎義会長（市岡連合振興町会会長）を兼ねる③は「市岡をモデル地区として進めら

れてきた地活協が十一校下全てで発足に至ったことは区長や区民の熱意の賜物。先行地区として更に前進させていこう」と呼びかけました。

田端区長は「住民による自主的なまちづくりという方向は平松市長時代から一貫している。

その要が^{かなめ}この地活協。港区では今年三月末までに全ての校下で立ち上げられた。区政会議も地活協も二十四区共通の仕組みだが、この仕組みの効果が一番発揮されるのは、住民の繋がり^{つな}が強くコミュニティがしっかりとっている港区だと思つ。地活協運営のサポートは港区まちづくりセンター支部が担うが、区役所もこれまで以上に地域と連携していきたいと強調しました。

◆予算は5400万円

このあと市岡地活協の今年度予算案が議論されました。その中では、①区役所から補助金として約「九四万円が支給される②それを補つため、活動の中で徴収する参加費など」で二〇〇万円超を定し、予算総額は約四〇〇万円となった③最初はこれよりかなりオーバーしていたが、よく協議し、部会ごとが譲り合ひ、さへいついてこの額に落ち着いた④この約四〇〇万円の

うち約「二七」三万田を使って「地域福祉更生」「防犯・防災・環境」「青少年」「総務・広報」の四部会が「敬老大会」「避難訓練」「ソフトボール大会」「はぐくみ盆踊り大会」などの活動を行なつた⑤。その残りのうち約四四万田を会館維持費などの運営費に充て、残りの約八〇万田は予備費とする。等の報告や提案が行なわれました。

◆独自収益で活動費補てんも

これらについての論議の中では「広報部会では地域のプラスになるよう運動会や寄席などはいくらでも広報に反映させていきたいので、その判断は任せてほしい」「せっかくな立ち上がった新組織。これを機に（地活協とは別に）サークル的な集まり「ゴルフ愛好会やお茶飲み会など」も作って更に地域のつながりを強めてほしい」「フリーマーケットを催して場所代をもらつてか、広報に広告を載せて広告料をもらつてかし、独自に収益を上げ、活動費の不足を補つてほしい」などの提案・意見が出されました。

そつとした論議のあと、役員改選も含めて提案事項はすべて参加者の拍手で承認され、運営委員会は終つてしまつた。先行七「デル地区」だけあつ

て、他の地域には見られない、具体的に積極的で迷いのない進行ぶりが印象的でした。



この他、十二日には池島で、十三日には南市岡でも運営委員会が開かれ、六月末までには残りの全ての校下でも開かれることになりすが、これまでのところ、「これはいいか」と気になつたのは、主に次の点です。

①地活協は全住民が対象であるにもかかわらず、その存在や役割の周知はこれからである

②総会にあたる最高決議機関とされる運営委員会に住民の声がどこまで反映されるか未知数

③運営委員自身が「よつ分から」と不安を見せていた（市岡校下は迷いがなく活発だった）

④活動費を補つたため「ミニミニライブ」ビジネスが奨励され、各校下でも計画していた

⑤各校下の構成団体特に社会福祉協議会との今後について、アドバイザー（港区まちづくりセンター）が十分な説明に苦労していた

——これから見えてくるのは、この「地活協」といつ新しい組織が地域住民や区役所職員の違いや要求とは関係なく、上からの一方的な

指示で非常に慌ただしく立ち上げさせられたといつ実情です。地域住民の大半がこの新組織のことを知らないが、知つていても意味や仕組みを理解していないのはそのためです。

また活動資金の不足を補つたためとして独自に「ビジネス」を強いられることが、相互扶助を「基本的な在り方とする地域の今後」にどんな影響を及ぼすか、大いに懸念されます。

さらに、このような「改革」が本当に必要だったのか、結局は地域へ落とす金を減らし、大阪都構想や二十四区再編や公的事業の相次ぐ民間化構想と合わせて、市民の税金や財産を財源本位に流すための巧妙な手口だったのではないかと、この懸念さえ抱かせられるといつです。

とはいえ他区には見られない綺麗なスタートを切つた港区の「地活協」。田端区長をはじめとする区役所職員やアドバイザー（港区まちづくりセンター）などによる立ち上げまでの精力的なサポートには是非賛否を越えて心からの敬意を表すると共に、今後、今挙げたような懸念・疑念を払拭し、克服する万回での区民との協働を切に期待するものであつた。

「地活協」報告書をつくる

区役所で説明会 煩雑さのため息も



→「地域活動協議会」の活動報告書をつくるかを学んだ説明会。熱意の中、煩雑さへのため息も漏れた＝5月29日、港区役所

この四月に各校下でスタートした「地域活動協議会（地活協）」は、区役所から一括して受け取る「補助金」で様々な活動をしますが、その活動報告書をつくるかの説明会へ「地域活動協議会補助金に係る説明会」が五月下旬に港区役所で「回行なわれました。このうち二十九日朝の説明会には各「地活協」の中心メンバーである運営委員ら約五十人が参加、熱心に耳を傾け、メモをとっていました。↑頁に「関連記事」

◆どんな事業にどれだけかかったか

港区役所の担当職員が「既に区役所から送金済みの補助金を使って一年間にどんな事業をし、いくらかかったかを年度末に報告書としてあげてもらったための説明会だ」とした上で、①事業内容を②記入するか③それにかかった費用を④記入するか⑤領収書やレシートを⑥どう処理するか⑦還元ポイントは⑧どう扱うか⑨備品を購入した時は⑩どうするか⑪収益を上げた時に税金は⑫どうなるか⑬給与や謝礼を払った時に税金や労働保険は⑭どうなるか⑮などを「記載例」を示しながら説明。その中で「二つの事業が終わった」とその（一）は①に報告書を作るというお勤めす

る「領収書やレシートの宛先は必ず『地活協』」になど助言しました。

◆担い手を広げた場合にも補助金が

また別の担当職員からは「地活協」活動の中で地域活動の担い手（ボランティアスタッフ）の裾野を^{すそ}広げる事業を行なった場合などに、新たに別の補助金（自律的な地域運営を支援するための活動補助金）をもらえるようになった（市岡校下は既に受給した）ことがアピールされ、「どんな場にももらえるか」「もらうにはどうしたらよいか」「どれだけもらえるか（上限一十万円）」などの説明が行なわれました。この中では「参加したボランティアスタッフ二人ひとりの氏名・住所・活動内容・活動時間などを記載した活動報告書を作成しなければならぬ」との説明に「え」と悲鳴が上がっていました。熱心に聴いていたある地活協の女性運営委員は「青少年部会を担当しています。全体を知っておく必要があると思って参加しましたが、事務の煩雑さ、特に『担い手を広げた場合の補助金』を受ける際の手間の膨大さには参りましたね」とため息をついていました。

あ さ や け

「従軍慰安婦は必要だった」米軍は風俗業を利用してもらいたい」と発言して世界中に恥を曝した橋下氏。問題は四つあります▼一つは「女性蔑視」二つは戦争否認です。このうち前者には批判や抗議が殺到しており、後者にはほとんど言及がありませんが、こちらの方も劣らず重大です。なぜなら「慰安婦」も「風俗」も悲惨な世界大戦とその延長である米軍基地を当然視し、それを前提にした発言だからです。世間を驚かすなら、そんな近現代史の戦争ありきの悪しき常識を碎く言動でこそアツと言わせるべきなのに、あつこいとか、そうした歴史の一番の犠牲者である女性を更に辱める方向で口を開くと、聴いている方が開いた口が塞がらまぜん▼加えて情けないのは、国内には読解力がないなどと嘯みつきながら、米国には「風俗娯楽」は撤回します」とあつこい頭を垂れたこと。主人に見放されたら政治家としてやっ

ていけなうばからに尻尾を振る姿には憐れさえ覚えます。この「奴隷根性」が二つ目の問題▼同時に、市民レベルの批判に便乗し、まるで自分の国は清廉潔白だったような口ぶりで橋下発言を問題視する米英など各国政府も負けず劣らずの厚顔無恥、いわば同じ穴の貉です。なぜなら他の国々も特に先進国は日本と同様、財界の号令で挙って二度の大戦へ雪崩れ込み、男女問わず国民の心身を骨の髄まで吸い上げてきたからです。この「各国同罪」が四つ目の問題です▼結論に入りましょう。橋下発言は鼻糞。それを貶す各国政府は目糞。戦争を煽り、若男女を殺めて恥じないこれら糞の如き連中をしかと見極め、彼らこそ抜本塞源の矛先を向けようではありませんか▼それにしても、戦争はもうろく、問題発言も抗議もない穏やかな世の中が早よ来んもんでしょつか。あんまりえげつないこと書への嫌ななですわ、ホンマ。

梅雨入りを控えた五月下旬。近所で二つのよかつたなあがありました。一つは入院生活を送っていた高齢女性が数年ぶりに自宅へ帰還したこと、もう一つは十年以上もバイト生活を続けていた青年が正社員になったことです▼高齢女性には以前から親しくしていた女性が涙を流しながら駆け寄り、「よかつたなあ、元氣になつて」と抱き寄せていました。青年の方は、珍しく背広姿で帰宅したのを筆者が見つけ、事情を聴いて、「よかつたなあ、よつ頑張つたなあ」。はにかみつつ返した笑顔が実に晴れやかでした。「雌伏十年」とか言いますが、先の見通せない状況下で努力を続けた一人に、もう一度心の中で「よかつたなあ」と祝福を贈つたものです▼とはいふ実際には頑張つても報われないことの方が圧倒的に多い今の世界。最近では家族のために昼夜問わず働き続けた女性や千二百人が犠牲になつたバングラデシュの縫製工場崩壊(四月)が鮮明です▼そんな中で生まれた二つの「よかつたなあ」。譬えれば「津波後の瓦礫の原で偶然見つけた輪草」だったところか。その心は「そぞやかな歓び」(分かります)。といつことで筆者もききました。こんな見渡す限り戦場のよつた荒涼たる現世にあつても、読んで「よかつたなあ」「そぞやかな歓び」を感じてもらえぬ爽やかな記事を毎朝届けたい、と「ペン」。

叫びたい！

今月の提言者

山田 博之さん 71歳 築港



港灣局の津波対策問う

防潮扉閉鎖訓練が年1回とは

私たち「津波高潮対策築港の会」は五月七日、津波防災の要である防潮鉄扉閉鎖訓練に関する質問書（後掲資料①）を港灣局長に、そして港灣局職員公舎を建設したときもその目的に照らして同公舎の廃止・売却計画の執行を当面の間

凍結するよう求める陳情書（後掲資料②）を市会議長に提出しました。市会建設消防委員会は同二十日に開かれ、日本共産党を除く他の会派が反対したため当会の陳情は不採択となりました。まことに残念です。

港灣局長の回答は、日後の二十一日に自宅に配達されました。二十四年度の防潮鉄扉閉鎖訓練に関する回答（要旨）は次の通りです。

①九月三日（月）、港区安泊川左岸地区の防潮扉等百十基の閉鎖訓練を実施。参加者は百五十六名（局職員七十八名、他局職員七十八名）。

②十一月五日（月）、港湾防災センターと港灣局第一会議室への夜間参集訓練を実施。参加者は局職員十三名。

③二月一日（金）、港区埠頭七十四号防潮扉で簡易防潮設備設置訓練を実施。参加者は局職員二十九名。

皆さん、二十四年度中に港灣局が行なった訓練はたったの三回でした。私は「これでよいのか」と思いました。感じた点を三つあげます。

①港灣局は、津波警報が発令された時、管内の二百六十基の防潮扉の全てを完全に閉鎖する

重大な管理責任を負っています。この責任を全うするためには日常的な訓練が必要です。にもかかわらず、二十四年度に港灣局が実施した防潮扉閉鎖訓練は昼日中の一回だけ。しかも、対象となる防潮扉の三分の一にすぎません。この程度の訓練で何ほどの技術習得と緊急時の対応力が組織として集積されるのでしょうか。私は、港灣局長から頂いた回答書を一読し、警察、消防と並び危機管理部門の重要な一翼を担っている港灣局の姿勢に疑問を抱きました。

②津波警報が発令された時、臨港四区に居住している港灣局と他局の職員（合計二百八名）が現場へ急行し、防潮鉄扉の閉鎖作業を行ないます。恐らく想定を超える環境の中での作業となるでしょう。緊急出勤班に登録されている他局の職員に対する訓練・研修が十分行なわれているとは思えません。不安です。

③夜間の訓練は局施設への参集で終了。閉鎖訓練は行なわれませんでした。「津波は夜来ない」？ オドロキ桃の木サンショの木です。

当会の陳情は否決されました。一週間後、中央防災会議の作業部会は南海トラフ地震に関す

る最終報告書を発表し、警鐘を鳴らしています。
当会はいずれからも防潮扉閉鎖訓練のあり方について市民の命と安全を守る立場から港漕局を追及していきます。

（津波高潮対策築港の会 事務局長）



＜資料1 津波高潮対策築港の会が5月7日に大阪市港漕局長に提出した「質問書」(要旨)＞

口頭は津波高潮防災に「尽力を賜り、厚くお礼申し上げます。」このたび、港漕局職員公舎廃止・売却計画に関する陳情書を提出しました。
つきましては、次の質問等に対し早急に文書回答を頂きたい、お願い申し上げます。(注＝5月20日の建設消防委員会に回答書を参考資料として提出します)

(1) 24年度防潮鉄扉閉鎖訓練について(貴局所管の防潮鉄扉の番番を示し、回答して下さい)

① 訓練実施日、参加人員(出向、他局)

② 時間外(夜間、深夜、早朝)及び雨天時の

訓練の有無(注＝「無」の場合は実施しなかった理由を明記して下さい)。

③ 簡易防潮設備 十裏(じゅうり)による訓練の有無。

材等搬入に要した時間、閉鎖元までに要した時間を回答して下さい。(注＝「無」の場合は実施しなかった理由を明記して下さい)

(2) 港漕局職員公舎築港への活用について

① 津波防災のためのワークショップの会場として活用する考えはありますか(注＝対象者は「2008年」地域防災リーダー、その他)

② 築港エリアの津波避難ビルとして当分の間提供する考えはありますか。(注＝民間等の協定済みの津波避難ビルはいずれも土・日・祝日、夜間の利用が不可能または不明です)

③ 障がい者等の福祉避難所は築港エリアではまだ指定されていないと聞いています。空きスペースを提供する考えはありますか。 以上。



＜資料2 津波高潮対策築港の会が5月7日に辻淳子・大阪市会議長に提出した「港漕局職員公舎廃止売却計画に関する陳情書」(要旨)＞

【陳情趣旨】

南海トラフを震源域とする巨大地震の発生に伴う大津波の大阪区域への来襲が危惧されています。港漕局職員公舎が津波来襲時の初動体制

を確保するための危機管理公舎として建設されたことは市議会議事録で明らかであります。大津波の来襲が高い確率で予想される中、これを廃止・売却することは議会や市民に対する重大な背信行為であり、到底容認できません。

南海トラフ地震・津波の来襲を想定した港区防災計画が先般策定されました。同計画を踏まえ今年度中に各校区単位の防災計画が順次策定されますが、その過程において港漕局職員公舎廃止・売却計画について改めて議論が行なわれる事も予想されます。当会は港漕局に対し防潮鉄扉閉鎖体制等について質問書を提出すると共に、港区区政会議及び築港地域活動協議会に対し同公舎の活用等について具体的な提言を行なう準備を現在進めています。

つきましては、港漕局職員公舎の設置目的を鑑み、同公舎の廃止・売却計画の執行を当分の間、凍結して下さいますようお願いいたします。

【陳情項目】

1、港漕局職員公舎の設置目的を鑑み、同公舎の廃止・売却計画の執行を当分の間、凍結して下さい。 以上。

力合わせ平和な日本を

大正区で「原爆と戦争展」活況



「日本の現状をもたらした第二次大戦と原爆の真実を伝えよう」「平和な未来のために語り継ぐ」と五月十一、十二日、大正区「ミニミニイセセンター」で「大正区 原爆と戦争展」が開かれました。大正区原爆被害者の会と大阪原爆展を成功させる会の主催で十二回目。一日間で二百人余りが来場しました。

◆なぜ320万人も殺されたか

パネル展示は内容別に構成。このうち『第二次世界大戦の真実』では、①皆が貧乏になって戦争になっていった②日本は中国人民の抵抗で既に敗北していた③アメリカは日本の攻撃を待ち受け、中国侵略と日本占領を目的に参戦した④日本の支配層は負けると分かったが、わざと死なせるような作戦を続けた⑤米軍は飢餓作戦や無差別爆撃で日本民族皆殺しをやった⑥一戦で敗戦までの流れが分かるように並べられ、「なぜ二百二十万人も殺されなければならなかったのか」という日本人の誰もが持つ疑問に真実の答えを提示しようとの姿勢が感じられました。

◆戦後支配のための殺戮

また『都市空襲の記録』では①東京大空襲で

←1943年にガダルカナル島で飢死した日本兵②、1945年4月に米軍の無差別爆撃で殺された沖縄の幼児③展示写真から



十万人が焼き殺された④大阪神戸・名古屋も地方都市も毎晩のように焼き払われた⑤などの写真を通じて、また『沖縄戦の真実』では①地形が変わるほどの艦砲射撃②無差別の県民大虐殺③などを示す写真を通じて、アメリカが戦後支配のため終戦ぎりぎりまで日本中で大量殺戮を続けた事実が浮き彫りにされていました。

◆アメリカによる原爆と原罪

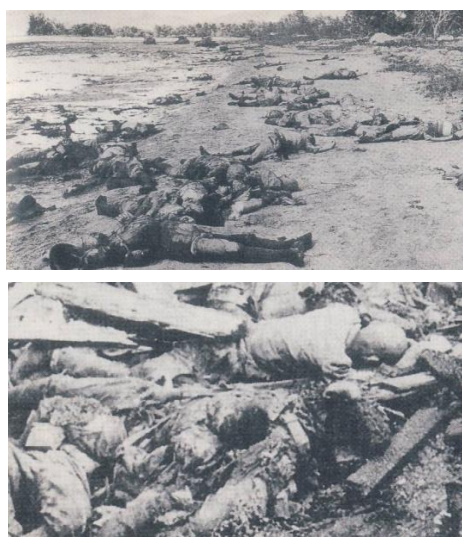
さらに『原爆と峠三吉の詩』では、①炎上する広島市街②瓦礫の山と化した長崎の街③地獄のような収容テント内④背中一面が焼けただけ、「殺してくれ」と叫ぶ少年⑤脱毛や斑点など

→「平和な未来のために語り継ぐ」と今年も開かれた「大正区 原爆と戦争展」は5月12日、大正区で写真展戦争体験を語り合う参加者

の原爆症に苦しむ市民—などの写真に、原爆詩人・峠三吉の詩や被爆市民の体験記などを添付。

「原爆投下は戦争終結のためには必要なく、戦後日本の単独占領・単独支配のためだった」ことを暴く^{あは}迫力ある展示が印象的でした。

また『福島原発事故』では、「なぜ地震列島に五十四基もの原発が」「日本中の原発を止める」「福島を必ず復興させよう」などのタイトルで関連資料が展示され、「アメリカが投下した原爆」と「アメリカが押し付けた原発」、また「戦



→1944年に全滅したサイパン島の守備隊と、

同年のレイテ島・オルモックの防衛戦で

犠牲となった日本兵の展示写真から

後復興」と「大震災からの復興」を一体で捉えてもらおうとの狙いが鮮明でした。

この他、大阪大空襲関連の体験画や実物資料、協力者から寄贈・提供された体験記や遺品・資料なども展示され、注目を集めていました。

◆戦争体験者が語り合う

一日目の午後には「原爆と戦争の体験を語るつどい」が開かれ、戦争体験者や教師、若者らから大要次のような体験や意見が語られました。

- ・パネルに「食卓」になって戦争になっていったとあるが、今も同じ空気を感ずる(高校教師)

- ・パネルでは大戦での米軍の横暴が強調されているが、現代も「アメリカさまさま」の情けない状況は同じだ(七十年代男性)

- ・都島区^{けま}の毛馬^{けま}で親父が豆腐屋をしていたが、サイパンに行かされて死んだ。従業員もいたが、みな空襲でやられた(七十年代男性)

- ・神戸空襲の時には明け方、焼夷弾^{しょういだん}で町が焼かれるのを山の上から見ている。帰り道では水ぶくれのような遺体をいくつも見た。家は全焼し、持って逃げた避難袋だけが残った。当時、三井信託銀行のタイピストをしていたが、三井

←1945年3月の東京大空襲のあと道路中に横たわる焼死体と、同年11月に撮影された広島市街の惨状の展示写真から



ビルやオリエンタルホテルは残り、東洋綿化^{めんか}やホンコン・シャンハイ、香港上海銀行の建物は無くなった。米軍はどこに何があるか、みな分かって爆弾を落としているのかと驚いた。焼夷弾は一つずつ落ちてくると思っていたが、実際にはバアツと落ちてきてどつしよもなかった。バケツリレーは何の役にも立たなかった。近所の人たちから色々な物を頂いて生き延びた。もらった着物でモンペを作ったが、今も大事に持っている。戦争が終わった時、『やっと生き残れた』と胸をなでお

ろしたのを覚えている（九十六歳女性）

・戦後、故郷に帰ったら何もかも無くなっていた。鉄兜てつこうを鍋釜なべかまの代わりじんごうにして生活した。人骨が埋まった所では芋が大きく育ったが、さすがに食べられなかった（七十代女性）

・戦争や原爆は身近な話ではないので「真実を知りたい！」と思って参加した。こんな悲惨な体験があるにも拘らずさむざ、国が原発建設を進めることに矛盾と憤りを感じている。海外でも活動したので、もっと日本の状況を学んでいきたい（女子看護大学生）

・こんな悲惨な体験をもし自分がしていたら



→1945年8月の長崎原爆で背中全面が焼けただれた少年⑤と、同年10月に広島・日赤病院で治療を受ける女性の⑥展示を真から

と思うと、とても不安になった（男子高校生）

・戦争の最高責任者であった天皇への責任追及はなかったのか、教えてほしい（男子大学生）

・戦後は、天皇に対して敬意よりも憎しみの方が大きかった。（戦中も「国賊」と言われるから、みな「万歳」と言っていたように思う（九十八歳女性）

・歴史は繰り返す。一回目の時にそれをどう生かすかが大事。テレビのバカ番組が考えない人間を生み出し、アベノミクスがバブルを作り出している。それが弾けた時に、悲劇でなく喜劇を演じるため、我々や高校生など戦後世代が頑張らねばならない。そのために今日は生徒たちを連れてきた（高校教師）

・人間は体も心も鍛えることが大事。今、教育が悪いと言われているにも拘らずかかわ、体罰騒ぎで子供たちの逞しさたくまを育てられない状況になっている。これをひっくり返す運動が必要だ。明治維新のように、若い人が先頭に立ってほしい。八月には広島で平和のための行動がある。平和な社会へ力を結集しよう（高校教師）

◆真実伝える場を期待

←1950年の朝鮮戦争に反対してデモ行進する広島市民⑦と、2006年原水爆禁止広島集会でデモ行進する参加者⑧展示を真から

集会でデモ行進する参加者⑧展示を真から



また来場者アンケートには「不景気や震災の不安から戦争へ向かうような最近の日本の動きが第一次大戦への流れと糸りにも似ている。正しいと信じていることを主張できない限り、同じように戦争に向かうかも」（二十九歳男性）「今が福島のことであって、若い人たちの意識が変わってきているので、真実を伝える場があるのは嬉しい。戦争で酷いことが起きたことを若い者も知るべきなので、ぜひ続けてほしい」（二十八歳男性）など記されていました。

市民活動弾圧許せん！

「韓基大さんを守る会」が釈放求める



→市民活動への政治弾圧に抗議し、韓基大さん

の即時釈放などを求めて開かれた記者会見

5月14日午前 北区の中央公会堂で

「原発いらんー」がれき燃やすな」と声を上げ続けてきた市民活動家・韓基大さん（ハンキデ）の逮捕・勾留（こうりゅう）に対する抗議の声が広がっています。五月十四日には港区民も参加する「韓基大さんを守る会」が北区の中央公会堂で記者会見を開き、「狙い撃ち的な逮捕は市民活動への政治弾圧」「半年もの勾留は重大な人権侵害だ」「直ちに釈放し、公訴棄却ないし無罪を」と訴えました。

◆がれき受け入れ抗議で逮捕

記者会見ではまず下地真樹さん（阪南大学経済学部准教授）が、韓さんの逮捕・起訴・勾留の事実経過を大要次のように報告しました。

・二〇二二年十一月の「震災がれき受け入れ」についての住民説明会（大阪市主催、此花区民ホール）で市民の一人として受け入れに抗議していたところ、大阪府警に逮捕され、その後、「威力業務妨害」の容疑で起訴された。逮捕の際、警察の現場指揮者が韓さんらを指さし確認していたことが目撃されており、以前から目を付けていた市民活動家を狙った恣意的な逮捕であることが強く疑われる。

・さらに同年十二月、二カ月前にJR大阪駅

前で「震災がれき焼却反対」の宣伝活動を行なったことに対し、大阪府警から「威力業務妨害」等の容疑で再逮捕（獄中）された。この場所は普段から市民の演奏活動などが行なわれているにも拘らず、当日はJR職員や警察官が執拗（しつよう）に活動をやめさせようとしたこと、一カ月も経つての逮捕であることから、これも恣意的な逮捕であることが疑われる。

・さらにその後、「慰安婦の証言を聴く集会」

（二〇二二年九月）で差別主義団体「在特会」（在日特権を許さない市民の会）系のメンバーが妨害に来て入場を拒否されたことから韓さんら四人が「容疑者」として立件され、今年一月に家宅捜査も行われ、三件目の起訴が狙われている。

その上で下地さんは「韓さんの逮捕・起訴・勾留は一個人への狙い撃ちであると同時に、民族差別でもあり、市民運動全体への政治弾圧だ。また半年を超える勾留は著しい人権侵害。直ちに無条件釈放すべきだ」と強調しました。

◆長期勾留は人権侵害

この報告を受けて石埼学さん（龍谷大学法科

大学院教授」が憲法研究者の立場から、①歴史的に形成されてきた駅前での市民活動への刑事罰適用には「市民の広場」が失われる危機感を感じる②仮に有罪としても半年を超える勾留は人間の尊厳を踏みにじる行為だ③一九五〇年代の米国で黒人差別に反対して弾圧されたローザ・パークスさんでさえ数時間しか拘束されなかったのと比較しても、韓さんの長期勾留は日本の特異性を示している—などと指摘しました。

◆活動家のつながり断つ意図

さらに石川裕一郎さん（聖学院大学准教授）も憲法研究者の立場から、①基本的人権を謳った日本国憲法があるにも拘らず、逮捕状がほぼ警察の請求通り発行される現状は異常だ②欧米ではマグナカルタ（一二二五年「大憲章」）制定以来の歴史から身体の自由が重視され、勾留期間もせいぜい二三日だが、日本では最長一十二日も拘束できる③今回の事件は戦前からの悪しき流れが法曹界にもマスメディアにも未だに残っていることの表れだ—と指摘しました。最後に再び下地さんが、記者団の質問に答える形で「社会の不正や差別を許せない」と活発に

←反原発を訴える韓基大さん（2011年大阪



活動してきた韓さんの逮捕には、市民や活動家としてのつながりを断つという権力の意図を感じる。恐いことだ」と訴えました。

◆むきづき書と活動も

なお、「守る会」はこの日、大阪地方裁判所に「韓さんや韓さんと同じ事件で起訴された全ての人たちの即時無条件釈放と公訴棄却ないし無罪」を求める申し入れ書を、大阪地方検察庁には「韓さんや韓さんと同じ事件で起訴された全ての人たちへの公訴の取り下げ」などを求める請願書を、それぞれ提出しました。

また同会が二月初旬から大阪地裁に対して進めてきた「韓基大さんたちの早期釈放と公正な裁判を求める書状」は四月末で約五五〇〇筆に

達しましたが、釈放などが実現するまで続けるとしています。

韓基大さんプロフィール アメリカがイラクに戦争を仕掛けた二〇〇三年、「何の罪もないイラクの人々を殺戮するのは許せん。しかも独裁者フセインを育てたのはアメリカなのに」と抗議の声を上げる。以来、「慰安婦被害を訴える女性たち、米軍基地を押し付けられた沖縄や日本各地の人々、障害者差別に苦しむ人たちの立場に立ち、また自身も朝鮮民族として差別に屈することなく闘ってきた。三・一一大震災と原発事故の後には「関西電力の原発を止めるのは関西に住む俺らの仕事や」と一年四月、誰よりも早く関電前での抗議行動を開始。がれき焼却反対運動でも先頭に立ち、公安警察からマークされていた。△韓基大さんを守る会△「機関紙から△韓基大さんを守る会△ 大阪市北区西天満一・三・二六絹笠ビル一階 大野協同法律事務所 気付 ☎〇九〇・九七四・二九七八 Eメール savehan20113@gmail.com ブログ http://savehan.tumblr.com

■港ひかり作業所「まづから品・レザークラブ

小銭入れ Ⅱ 五百と六百円▽キーケースⅡ

五百〇千円▽カードケース＝四百円▽レザーハ
ンド＝三百五十円▽ペンケース＝七百円▽キー
ホルダー＝二百五十円▽めがねケース＝千円▽
小物入れ＝千〇三百円▽定港ひかり作業所
は池島一・四市宮住宅内（TEL六五四・二
四二五、FAX六五七一・二五九〇）。

ウェルカムプレート・袋物・和柄帽子などⅡⅢ

百円より▽あゆみ作業所は生活介護の指定障害
 福祉サービス事業所（築港二一〇・一八、T
 EL・FAX六五七二一〇七二四）。
 ■ワークみなと「手づくりお菓子・印刷」り
 んごケーキ・パイナップルケーキ（バザー時の
 み）＝百円▽くのみめべし（同）＝百円▽封筒印
 刷（長3、千枚以上）＝一枚十円（応相談）▽は

がき(十枚から)＝一枚 十円(応相談)▽名刺
(ロゴ入れ可)＝百枚 一〇五〇円より▽カラー名
刺(ロゴ入れ可)＝百枚 一五七五円より▽ワーク
みなとは就労継続支援B型の指定障害福祉サ―
ビス事業所 (夕凧 一・六・三、TEL六五七二

四一五、FAX六五七一—二五九〇。

ウエルカムプレート・袋物・わがら柄帽子などⅡ三百円より▽あゆみ作業所は生活介護の指定障害福祉サービス事業所（築港三・一〇・一八、〒

ん) ケーキ・パイナップルケーキ (バザー時の
 み) ≡ 百円▽くるみゆべし(同) ≡ 百円▽封筒印
 刷 (長3、千枚以上) ≡ 一枚十円 (応相談)▽は
 がき(十枚から) ≡ 一枚二十円 (応相談)▽名刺

刺(ロゴ入れ可)≡百枚一五〇円より▽カラー名

ビス事業所 夕凧一六三、TEL六五七一

新聞を読んで

池島・勝部泰臣80歳
かいつくすおみ

新聞の政治面を読んでいて、あきれることが最近多い。憲法九条を改正（悪？）するため九十八条にある憲法改正のハードル（衆参両院の総議員の三分の二以上の賛成がなければ発議できない）を「過半数に下げよう」とか、「いや参院選前に打ち出すと世論の反対が多い」「今はまずい、選挙が終わってからにしよう」など。他には「フニフェストには実行できない」とだけ書いて選挙戦を戦おうとか。一体、政治家には「自分たちは国民を代表しています」という自覚があるのだろうか。

我が家の家訓にある「政治は酔って議論するな」「政治のことは口に出すな」を破って敢えて言う。周辺各国と仲良くするといつ外交の基本も何のその、やたら刺激を与えて批判を浴び、火消しに追われたり、弁解したり、発言を取り消したり。もった腹の中で消化してから物言わねえ。これじゃ益々政治への無関心が広がる、「フニフェスト」の方がいいや」となり

はしまいか。

元氣もつた「港地域メーデー」

（港晴・70代男性）

「生活破壊に労働者の反撃を！」（前号1頁）に元氣をもらいました。私もかつては区内の鉄工関係の企業に勤め、そこで組合活動にも携わっていましたが、今は妻と二人、特にすることもなく、時間を持て余す日々を送っています。記事をよんで、活気があった頃の工場の様子や、経営陣と激しく渡り合った春闘の光景が甦りました。あの時代と比べて日本の経済はすっ



↑読者の作品から「旬です」

（田園元町3）の絵手紙

と悪くなり、労働者の置かれた状況も格段に厳しくなっていますが、それでも、とびきり、それだからと、いついて社会に対して問題意識を持ち、シユプリーを上げる労働者の姿は、とても尊いものに感じられました。

組合員だった時代、いつの時代でも労働者は世の中の土台であり、何かあったら先頭に立たなければならない」と教えてもらいましたが、この労働者たちは、そのことを今もしっかりと守っているのだと思います。それに比べて、まだこれといって体に悪いところもないのに、また年金のおかげで特に生活に困っている訳でもないのに、社会や地域のためになることを何もしていない自分を恥すかしく思いました。それで、妻と相談しながら、何か自分できる簡単なところでも始めようかと考えているところです。人生に良い刺激を与えて頂き、感謝しています。

「断交会」記事に助け合いの力見た

（港晴・70代女性）

「はちまんの鯉ひ共有」（前号15頁）を読ん

で。「断酒云」といふ集まりがあることを初めて知りました。一人ひとりにも、またどの家族にも、形の違つそれぞれの苦しみがあったでしょうが、それらを乗り越えられたのは、やはりグループでの励まし合い、助け合いがあったからだと思います。一人の力は弱くても、集団の力は凄^{すご}いと改めて感じました。そして、深く苦しんだ人ほど、普通の人が見過^{みそ}す些細な日常にも歓びを感じられるのだろつと思ひました。

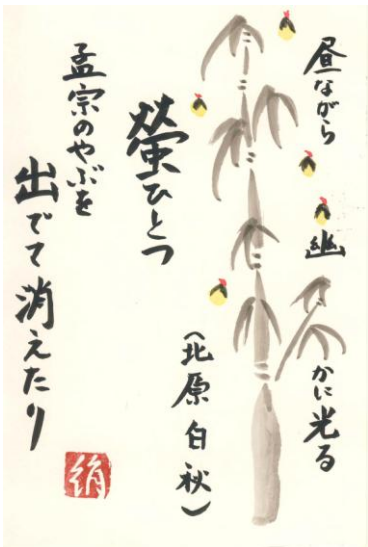
桜の下で、弁当とお菓子とお茶だけで楽しげに語り合ひる様子が目に浮かび、この幸福がいつまでもこの方たちの上にあるように願ひました。そして、「これまで夫と共に、大きな病気や苦勞もなぐ過^すじてきた私ですが、そのご自体、とても幸せなようで、これから、そんな何気ない日常に幸せを感じ続けなければもつたにないと思つた次第です。小さな記事ですが、私には宝石のように感じられました。

「夜合酒場」のソート感じづゐる

(北区・50代男性)

今年になつてネットで見つけ、毎月、こまめ

食ひ的な感^{かん}で読ませてもらつています。今月(五月)は「あわや夜合酒場」の記事(前巻27頁)が良かったです。浪花町の京子さんの歌を南森町の路上ライブで聴いたことがあるので、ます京子さんの写真が目に入り、少し長めの記事でしたが、最後まで読んでしまいました。読みながら、ビビッドなライブ感にびれました。特に京子さんのジャズは本当にこの通りで、圧倒されます。花☆キヤラやJ・P・Fさんなど他のミュージシャンの様子も手に取るように伝わつてきました。こんな素敵なライブが港区で行なわれてゐることを羨^{うらや}ましく思ひました。



↑読者の作品から尾崎キヌヤと

(池田区)の絵手紙

他に「戦争体験」など硬い題材も扱われ、全体を通して編集者の真面目な姿勢が感じられます。これからも楽しみにしています。

猪伏さん「戦争体験」に引き込まれた

(八幡屋・50代教師)

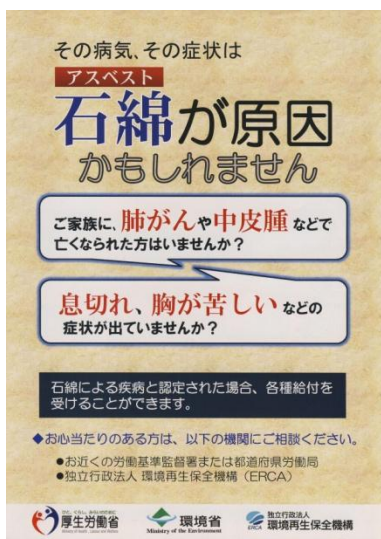
猪伏昌三さんの「戦争体験」(前巻27頁)に引き込まれました。また第一回(10頁)で、これらが「本番」だと思いますが、日中戦争から大東亜戦争へと戦火が拡大し、やがて終戦を迎えるまでの満州の雰囲気、当時少年だった猪伏さんの目を通して流れるように語られ、一気に読んでしまいました。私にはもちろん戦争体験などありませんが、歴史に興味があり、また平和のために大切だと思つので、こつこつ記事は好んで読みます。『弥栄子の望』(今月で最終回)は戦争に翻弄^{ほんろう}されながらも生き抜いた女性の逞^{たくま}しさに心が洗われます。港新聞の戸別配布はなくなりましたが、前から愛読していたので、今は引き続きネットで読ませてもらうつもりです。

あれこれガイド

■石綿(アスベスト)パンフ 肺がん、中皮腫など

どの病気や、息切れ、胸の苦しさなどの症状や、それらによる死亡が「アスベスト(石綿)」によるものだ」と認められたら、色々な給付を受けることができると。このパンフレット＝写真Ⅱは、

そんな人たちが家族のために、①石綿による病気にはどんなものがあるか②石綿による病気と分かった場合の補償や救済の制度にはどんなものがあるか③その場合どこへ問い合わせたらよいかなどを厚生労働省と環境省と独立行政法人環境再生保全機構(ERCA)がまとめたもの。タイトルは「その病気、その症状は石綿(アスベスト)」が原因がもしません。」「コン



バクトで分かりやすい(区内六十代男性)と好評。港区で暮らすか働いている人なら港区役所合同庁舎(市岡一・一五・一五)二階の港区保健福祉センターのチラシスタンドに設置してあるものを無料でもらえる。

■石綿(アスベスト)労災パンフ 中皮腫、肺がんなどになり、それが石綿(アスベスト)に触れる仕事をしていたことが原因だと認められ

たら、本人には労災保険給付が、遺族には特別遺族給付金が支給される。このパンフレット＝写真Ⅱは、石綿に触れる仕事をしていた人やその家族のために、①石綿に触れる仕事とどんなものか②石綿による病気とはどんなものか③それが労災として認定されるにはどんな条件が



必要かーなどを厚生労働省がまとめたもの。タイトルは「石綿による疾病の労災認定」。

「メチャ分かりやすい(区内五十代男性)」と好評。港区で暮らすか働いている人なら大阪西労働基準監督署(西区南堀江一・二・一・一、TEL六五三二・〇八〇一、FAX六五三二・〇八〇五)に設置してあるものをもらえる。労災保険相談ダイヤル(〇五七〇・〇〇六〇三三、平日九時十七時、有料)に電話で質問や相談をすることもできる。

■ムチ打ち(省・腰)無料相談会 交通事故でムチ打ちになった被害者を対象とした無料相談会。六月十三日(日)十時十八時に行政書士のむら事務所(築港二・七・一・六〇〇)で。

一人約一時間。事前予約制(電話かEメールで)。「どついたら正当な補償が得られるかをアドバイスします」「事故後、早めの相談が良い結果につながります」(同事務所・野村光恵さん)。Eメール: info@jikkou10-nomura.com、TEL:六五七六・六〇七八、FAX:六五七六・六〇七九。

■緑の地球ネットワーク(Green) 中国山西省

たいやう じゅう

大同市の黄土高原で一九九二年から緑化協力を続ける認定特定非営利活動法人。地球環境のため国境を越えて力を合わせている。次のような協力方法がある。①会員になる②年会費一万二千円③会報を購読する④年間 千円⑤カンパする⑥金額目録(税制上の優遇措置あり)⑦絵はがき『黄土高原の花』を購入する⑧八枚組三百円⑨ビデオ『よみがえる森』を購入する⑩三十分五千円⑪古切手・書き損じはがき・外国コイン・商品券等を送る⑫ポフンティアになる⑬会報発送など⑭黄土高原スタディツアーに参加する⑮黄土高原を訪問し、緑化協力の成果を観察し、村人と交流し、失われた緑を取り戻す試みを体験。八月 二十四〜三十日(六泊七日)。費用は一般二六九〇〇円、学生二四九〇〇円。定員三十五名程度。申込期限七月十七日(先着順)⑨DVD『黄色い大地に広がる緑・草の根環境協力の二十年』を観る⑩約三十分。無料。⑪ビデオ⑩GEN自然が親しむ会に参加する⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿㏀㏁㏂㏃㏄㏅㏆㏇㏈㏉㏊㏋㏌㏍㏎㏏㏐㏑㏒㏓㏔㏕㏖㏗㏘㏙㏚㏛㏜㏝㏞㏟㏠㏡㏢㏣㏤㏥㏦㏧㏨㏩㏪㏫㏬㏭㏮㏯㏰㏱㏲㏳㏴㏵㏶㏷㏸㏹㏺㏻㏼㏽㏾㏿㐀㐁㐂㐃㐄㐅㐆㐇㐈㐉㐊㐋㐌㐍㐎㐏㐐㐑㐒㐓㐔㐕㐖㐗㐘㐙㐚㐛㐜㐝㐞㐟㐠㐡㐢㐣㐤㐥㐦㐧㐨㐩㐪㐫㐬㐭㐮㐯㐰㐱㐲㐳㐴㐵㐶㐷㐸㐹㐺㐻㐼㐽㐾㐿㑀㑁㑂㑃㑄㑅㑆㑇㑈㑉㑊㑋㑌㑍㑎㑏㑐㑑㑒㑓㑔㑕㑖㑗㑘㑙㑚㑛㑜㑝㑞㑟㑠㑡㑢㑣㑤㑥㑦㑧㑨㑩㑪㑫㑬㑭㑮㑯㑰㑱㑲㑳㑴㑵㑶㑷㑸㑹㑺㑻㑼㑽㑾㑿㒀㒁㒂㒃㒄㒅㒆㒇㒈㒉㒊㒋㒌㒍㒎㒏㒐㒑㒒㒓㒔㒕㒖㒗㒘㒙㒚㒛㒜㒝㒞㒟㒠㒡㒢㒣㒤㒥㒦㒧㒨㒩㒪㒫㒬㒭㒮㒯㒰㒱㒲㒳㒴㒵㒶㒷㒸㒹㒺㒻㒼㒽㒾㒿㓀㓁㓂㓃㓄㓅㓆㓇㓈㓉㓊㓋㓌㓍㓎㓏㓐㓑㓒㓓㓔㓕㓖㓗㓘㓙㓚㓛㓜㓝㓞㓟㓠㓡㓢㓣㓤㓥㓦㓧㓨㓩㓪㓫㓬㓭㓮㓯㓰㓱㓲㓳㓴㓵㓶㓷㓸㓹㓺㓻㓼㓽㓾㓿㔀㔁㔂㔃㔄㔅㔆㔇㔈㔉㔊㔋㔌㔍㔎㔏㔐㔑㔒㔓㔔㔕㔖㔗㔘㔙㔚㔛㔜㔝㔞㔟㔠㔡㔢㔣㔤㔥㔦㔧㔨㔩㔪㔫㔬㔭㔮㔯㔰㔱㔲㔳㔴㔵㔶㔷㔸㔹㔺㔻㔼㔽㔾㔿㕀㕁㕂㕃㕄㕅㕆㕇㕈㕉㕊㕋㕌㕍㕎㕏㕐㕑㕒㕓㕔㕕㕖㕗㕘㕙㕚㕛㕜㕝㕞㕟㕠㕡㕢㕣㕤㕥㕦㕧㕨㕩㕪㕫㕬㕭㕮㕯㕰㕱㕲㕳㕴㕵㕶㕷㕸㕹㕺㕻㕼㕽㕾㕿㖀㖁㖂㖃㖄㖅㖆㖇㖈㖉㖊㖋㖌㖍㖎㖏㖐㖑㖒㖓㖔㖕㖖㖗㖘㖙㖚㖛㖜㖝㖞㖟㖠㖡㖢㖣㖤㖥㖦㖧㖨㖩㖪㖫㖬㖭㖮㖯㖰㖱㖲㖳㖴㖵㖶㖷㖸㖹㖺㖻㖼㖽㖾㖿㗀㗁㗂㗃㗄㗅㗆㗇㗈㗉㗊㗋㗌㗍㗎㗏㗐㗑㗒㗓㗔㗕㗖㗗㗘㗙㗚㗛㗜㗝㗞㗟㗠㗡㗢㗣㗤㗥㗦㗧㗨㗩㗪㗫㗬㗭㗮㗯㗰㗱㗲㗳㗴㗵㗶㗷㗸㗹㗺㗻㗼㗽㗾㗿㘀㘁㘂㘃㘄㘅㘆㘇㘈㘉㘊㘋㘌㘍㘎㘏㘐㘑㘒㘓㘔㘕㘖㘗㘘㘙㘚㘛㘜㘝㘞㘟㘠㘡㘢㘣㘤㘥㘦㘧㘨㘩㘪㘫㘬㘭㘮㘯㘰㘱㘲㘳㘴㘵㘶㘷㘸㘹㘺㘻㘼㘽㘾㘿㙀㙁㙂㙃㙄㙅㙆㙇㙈㙉㙊㙋㙌㙍㙎㙏㙐㙑㙒㙓㙔㙕㙖㙗㙘㙙㙚㙛㙜㙝㙞㙟㙠㙡㙢㙣㙤㙥㙦㙧㙨㙩㙪㙫㙬㙭㙮㙯㙰㙱㙲㙳㙴㙵㙶㙷㙸㙹㙺㙻㙼㙽㙾㙿㚀㚁㚂㚃㚄㚅㚆㚇㚈㚉㚊㚋㚌㚍㚎㚏㚐㚑㚒㚓㚔㚕㚖㚗㚘㚙㚚㚛㚜㚝㚞㚟㚠㚡㚢㚣㚤㚥㚦㚧㚨㚩㚪㚫㚬㚭㚮㚯㚰㚱㚲㚳㚴㚵㚶㚷㚸㚹㚺㚻㚼㚽㚾㚿㜀㜁㜂㜃㜄㜅㜆㜇㜈㜉㜊㜋㜌㜍㜎㜏㜐㜑㜒㜓㜔㜕㜖㜗㜘㜙㜚㜛㜜㜝㜞㜟㜠㜡㜢㜣㜤㜥㜦㜧㜨㜩㜪㜫㜬㜭㜮㜯㜰㜱㜲㜳㜴㜵㜶㜷㜸㜹㜺㜻㜼㜽㜾㜿㝀㝁㝂㝃㝄㝅㝆㝇㝈㝉㝊㝋㝌㝍㝎㝏㝐㝑㝒㝓㝔㝕㝖㝗㝘㝙㝚㝛㝜㝝㝞㝟㝠㝡㝢㝣㝤㝥㝦㝧㝨㝩㝪㝫㝬㝭㝮㝯㝰㝱㝲㝳㝴㝵㝶㝷㝸㝹㝺㝻㝼㝽㝾㝿㞀㞁㞂㞃㞄㞅㞆㞇㞈㞉㞊㞋㞌㞍㞎㞏㞐㞑㞒㞓㞔㞕㞖㞗㞘㞙㞚㞛㞜㞝㞞㞟㞠㞡㞢㞣㞤㞥㞦㞧㞨㞩㞪㞫㞬㞭㞮㞯㞰㞱㞲㞳㞴㞵㞶㞷㞸㞹㞺㞻㞼㞽㞾㞿㟀㟁㟂㟃㟄㟅㟆㟇㟈㟉㟊㟋㟌㟍㟎㟏㟐㟑㟒㟓㟔㟕㟖㟗㟘㟙㟚㟛㟜㟝㟞㟟㟠㟡㟢㟣㟤㟥㟦㟧㟨㟩㟪㟫㟬㟭㟮㟯㟰㟱㟲㟳㟴㟵㟶㟷㟸㟹㟺㟻㟼㟽㟾㟿㠀㠁㠂㠃㠄㠅㠆㠇㠈㠉㠊㠋㠌㠍㠎㠏㠐㠑㠒㠓㠔㠕㠖㠗㠘㠙㠚㠛㠜㠝㠞㠟㠠㠡㠢㠣㠤㠥㠦㠧㠨㠩㠪㠫㠬㠭㠮㠯㠰㠱㠲㠳㠴㠵㠶㠷㠸㠹㠺㠻㠼㠽㠾㠿㡀㡁㡂㡃㡄㡅㡆㡇㡈㡉㡊㡋㡌㡍㡎㡏㡐㡑㡒㡓㡔㡕㡖㡗㡘㡙㡚㡛㡜㡝㡞㡟㡠㡡㡢㡣㡤㡥㡦㡧㡨㡩㡪㡫㡬㡭㡮㡯㡰㡱㡲㡳㡴㡵㡶㡷㡸㡹㡺㡻㡼㡽㡾㡿㢀㢁㢂㢃㢄㢅㢆㢇㢈㢉㢊㢋㢌㢍㢎㢏㢐㢑㢒㢓㢔㢕㢖㢗㢘㢙㢚㢛㢜㢝㢞㢟㢠㢡㢢㢣㢤㢥㢦㢧㢨㢩㢪㢫㢬㢭㢮㢯㢰㢱㢲㢳㢴㢵㢶㢷㢸㢹㢺㢻㢼㢽㢾㢿㣀㣁㣂㣃㣄㣅㣆㣇㣈㣉㣊㣋㣌㣍㣎㣏㣐㣑㣒㣓㣔㣕㣖㣗㣘㣙㣚㣛㣜㣝㣞㣟㣠㣡㣢㣣㣤㣥㣦㣧㣨㣩㣪㣫㣬㣭㣮㣯㣰㣱㣲㣳㣴㣵㣶㣷㣸㣹㣺㣻㣼㣽㣾㣿㤀㤁㤂㤃㤄㤅㤆㤇㤈㤉㤊㤋㤌㤍㤎㤏㤐㤑㤒㤓㤔㤕㤖㤗㤘㤙㤚㤛㤜㤝㤞㤟㤠㤡㤢㤣㤤㤥㤦㤧㤨㤩㤪㤫㤬㤭㤮㤯㤰㤱㤲㤳㤴㤵㤶㤷㤸㤹㤺㤻㤼㤽㤾㤿㥀㥁㥂㥃㥄㥅㥆㥇㥈㥉㥊㥋㥌㥍㥎㥏㥐㥑㥒㥓㥔㥕㥖㥗㥘㥙㥚㥛㥜㥝㥞㥟㥠㥡㥢㥣㥤㥥㥦㥧㥨㥩㥪㥫㥬㥭㥮㥯㥰㥱㥲㥳㥴㥵㥶㥷㥸㥹㥺㥻㥼㥽㥾㥿㦀㦁㦂㦃㦄㦅㦆㦇㦈㦉㦊㦋㦌㦍㦎㦏㦐㦑㦒㦓㦔㦕㦖㦗㦘㦙㦚㦛㦜㦝㦞㦟㦠㦡㦢㦣㦤㦥㦦㦧㦨㦩㦪㦫㦬㦭㦮㦯㦰㦱㦲㦳㦴㦵㦶㦷㦸㦹㦺㦻㦼㦽㦾㦿㧀㧁㧂㧃㧄㧅㧆㧇㧈㧉㧊㧋㧌㧍㧎㧏㧐㧑㧒㧓㧔㧕㧖㧗㧘㧙㧚㧛㧜㧝㧞㧟㧠㧡㧢㧣㧤㧥㧦㧧㧨㧩㧪㧫㧬㧭㧮㧯㧰㧱㧲㧳㧴㧵㧶㧷㧸㧹㧺㧻㧼㧽㧾㧿㨀㨁㨂㨃㨄㨅㨆㨇㨈㨉㨊㨋㨌㨍㨎㨏㨐㨑㨒㨓㨔㨕㨖㨗㨘㨙㨚㨛㨜㨝㨞㨟㨠㨡㨢㨣㨤㨥㨦㨧㨨㨩㨪㨫㨬㨭㨮㨯㨰㨱㨲㨳㨴㨵㨶㨷㨸㨹㨺㨻㨼㨽㨾㨿㩀㩁㩂㩃㩄㩅㩆㩇㩈㩉㩊㩋㩌㩍㩎㩏㩐㩑㩒㩓㩔㩕㩖㩗㩘㩙㩚㩛㩜㩝㩞㩟㩠㩡㩢㩣㩤㩥㩦㩧㩨㩩㩪㩫㩬㩭㩮㩯㩰㩱㩲㩳㩴㩵㩶㩷㩸㩹㩺㩻㩼㩽㩾㩿㪀㪁㪂㪃㪄㪅㪆㪇㪈㪉㪊㪋㪌㪍㪎㪏㪐㪑㪒㪓㪔㪕㪖㪗㪘㪙㪚㪛㪜㪝㪞㪟㪠㪡㪢㪣㪤㪥㪦㪧㪨㪩㪪㪫㪬㪭㪮㪯㪰㪱㪲㪳㪴㪵㪶㪷㪸㪹㪺㪻㪼㪽㪾㪿㫀㫁㫂㫃㫄㫅㫆㫇㫈㫉㫊㫋㫌㫍㫎㫏㫐㫑㫒㫓㫔㫕㫖㫗㫘㫙㫚㫛㫜㫝㫞㫟㫠㫡㫢㫣㫤㫥㫦㫧㫨㫩㫪㫫㫬㫭㫮㫯㫰㫱㫲㫳㫴㫵㫶㫷㫸㫹㫺㫻㫼㫽㫾㫿㬀㬁㬂㬃㬄㬅㬆㬇㬈㬉㬊㬋㬌㬍㬎㬏㬐㬑㬒㬓㬔㬕㬖㬗㬘㬙㬚㬛㬜㬝㬞㬟㬠㬡㬢㬣㬤㬥㬦㬧㬨㬩㬪㬫㬬㬭㬮㬯㬰㬱㬲㬳㬴㬵㬶㬷㬸㬹㬺㬻㬼㬽㬾㬿㭀㭁㭂㭃㭄㭅㭆㭇㭈㭉㭊㭋㭌㭍㭎㭏㭐㭑㭒㭓㭔㭕㭖㭗㭘㭙㭚㭛㭜㭝㭞㭟㭠㭡㭢㭣㭤㭥㭦㭧㭨㭩㭪㭫㭬㭭㭮㭯㭰㭱㭲㭳㭴㭵㭶㭷㭸㭹㭺㭻㭼㭽㭾㭿㮀㮁㮂㮃㮄㮅㮆㮇㮈㮉㮊㮋㮌㮍㮎㮏㮐㮑㮒㮓㮔㮕㮖㮗㮘㮙㮚㮛㮜㮝㮞㮟㮠㮡㮢㮣㮤㮥㮦㮧㮨㮩㮪㮫㮬㮭㮮㮯㮰㮱㮲㮳㮴㮵㮶㮷㮸㮹㮺㮻㮼㮽㮾㮿㯀㯁㯂㯃㯄㯅㯆㯇㯈㯉㯊㯋㯌㯍㯎㯏㯐㯑㯒㯓㯔㯕㯖㯗㯘㯙㯚㯛㯜㯝㯞㯟㯠㯡㯢㯣㯤㯥㯦㯧㯨㯩㯪㯫㯬㯭㯮㯯㯰㯱㯲㯳㯴㯵㯶㯷㯸㯹㯺㯻㯼㯽㯾㯿㰀㰁㰂㰃㰄㰅㰆㰇㰈㰉㰊㰋㰌㰍㰎㰏㰐㰑㰒㰓㰔㰕㰖㰗㰘㰙㰚㰛㰜㰝㰞㰟㰠㰡㰢㰣㰤㰥㰦㰧㰨㰩㰪㰫㰬㰭㰮㰯㰰㰱㰲㰳㰴㰵㰶㰷㰸㰹㰺㰻㰼㰽㰾㰿㱀㱁㱂㱃㱄㱅㱆㱇㱈㱉㱊㱋㱌㱍㱎㱏㱐㱑㱒㱓㱔㱕㱖㱗㱘㱙㱚㱛㱜㱝㱞㱟㱠㱡㱢㱣㱤㱥㱦㱧㱨㱩㱪㱫㱬㱭㱮㱯㱰㱱㱲㱳㱴㱵㱶㱷㱸㱹㱺㱻㱼㱽㱾㱿㲀㲁㲂㲃㲄㲅㲆㲇㲈㲉㲊㲋㲌㲍㲎㲏㲐㲑㲒㲓㲔㲕㲖㲗㲘㲙㲚㲛㲜㲝㲞㲟㲠㲡㲢㲣㲤㲥㲦㲧㲨㲩㲪㲫㲬㲭㲮㲯㲰㲱㲲㲳㲴㲵㲶㲷㲸㲹㲺㲻㲼㲽㲾㲿㳀㳁㳂㳃㳄㳅㳆㳇㳈㳉㳊㳋㳌㳍㳎㳏㳐㳑㳒㳓㳔㳕㳖㳗㳘㳙㳚㳛㳜㳝㳞㳟㳠㳡㳢㳣㳤㳥㳦㳧㳨㳩㳪㳫㳬㳭㳮㳯㳰㳱㳲㳳㳴㳵㳶㳷㳸㳹㳺㳻㳼㳽㳾㳿㴀㴁㴂㴃㴄㴅㴆㴇㴈㴉㴊㴋㴌㴍㴎㴏㴐㴑㴒㴓㴔㴕㴖㴗㴘㴙㴚㴛㴜㴝㴞㴟㴠㴡㴢㴣㴤㴥㴦㴧㴨㴩㴪㴫㴬㴭㴮㴯㴰㴱㴲㴳㴴㴵㴶㴷㴸㴹㴺㴻㴼㴽㴾㴿㵀㵁㵂㵃㵄㵅㵆㵇㵈㵉㵊㵋㵌㵍㵎㵏㵐㵑㵒㵓㵔㵕㵖㵗㵘㵙㵚㵛㵜㵝㵞㵟㵠㵡㵢㵣㵤㵥㵦㵧㵨㵩㵪㵫㵬㵭㵮㵯㵰㵱㵲㵳㵴㵵㵶㵷㵸㵹㵺㵻㵼㵽㵾㵿㶀㶁㶂㶃㶄㶅㶆㶇㶈㶉㶊㶋㶌㶍㶎㶏㶐㶑㶒㶓㶔㶕㶖㶗㶘㶙㶚㶛㶜㶝㶞㶟㶠㶡㶢㶣㶤㶥㶦㶧㶨㶩㶪㶫㶬㶭㶮㶯㶰㶱㶲㶳㶴㶵㶶㶷㶸㶹㶺㶻㶼㶽㶾㶿㷀㷁㷂㷃㷄㷅㷆㷇㷈㷉㷊㷋㷌㷍㷎㷏㷐㷑㷒㷓㷔㷕㷖㷗㷘㷙㷚㷛㷜㷝㷞㷟㷠㷡㷢㷣㷤㷥㷦㷧㷨㷩㷪㷫㷬㷭㷮㷯㷰㷱㷲㷳㷴㷵㷶㷷㷸㷹㷺㷻㷼㷽㷾㷿㸀㸁㸂㸃㸄㸅㸆㸇㸈㸉㸊㸋㸌㸍㸎㸏㸐㸑㸒㸓㸔㸕㸖㸗㸘㸙㸚㸛㸜㸝㸞㸟㸠㸡㸢㸣㸤㸥㸦㸧㸨㸩㸪㸫㸬㸭㸮㸯㸰㸱㸲㸳㸴㸵㸶㸷㸸㸹㸺㸻㸼㸽㸾㸿㹀㹁㹂㹃㹄㹅㹆㹇㹈㹉㹊㹋㹌㹍㹎㹏㹐㹑㹒㹓㹔㹕㹖㹗㹘㹙㹚㹛㹜㹝㹞㹟㹠㹡㹢㹣㹤㹥㹦㹧㹨㹩㹪㹫㹬㹭㹮㹯㹰㹱㹲㹳㹴㹵㹶㹷㹸㹹㹺㹻㹼㹽㹾㹿㺀㺁㺂㺃㺄㺅㺆㺇㺈㺉㺊㺋㺌㺍㺎㺏㺐㺑㺒㺓㺔㺕㺖㺗㺘㺙㺚㺛㺜㺝㺞㺟㺠㺡㺢㺣㺤㺥㺦㺧㺨㺩㺪㺫㺬㺭㺮㺯㺰㺱㺲㺳㺴㺵㺶㺷㺸㺹㺺㺻㺼㺽㺾㺿㻀㻁㻂㻃㻄㻅㻆㻇㻈㻉㻊㻋㻌㻍㻎㻏㻐㻑㻒㻓㻔㻕㻖㻗㻘㻙㻚㻛㻜㻝㻞㻟㻠㻡㻢㻣㻤㻥㻦㻧㻨㻩㻪㻫㻬㻭㻮㻯㻰㻱㻲㻳㻴㻵㻶㻷㻸㻹㻺㻻㻼㻽㻾㻿㼀㼁㼂㼃㼄㼅㼆㼇㼈㼉㼊㼋㼌㼍㼎㼏㼐㼑㼒㼓㼔㼕㼖㼗㼘㼙㼚㼛㼜㼝㼞㼟㼠㼡㼢㼣㼤㼥㼦㼧㼨㼩㼪㼫㼬㼭㼮㼯㼰㼱㼲㼳㼴㼵㼶㼷㼸㼹㼺㼻㼼㼽㼾㼿㽀㽁㽂㽃㽄㽅㽆㽇㽈㽉㽊㽋㽌㽍㽎㽏㽐㽑㽒㽓㽔㽕㽖㽗㽘㽙㽚㽛㽜㽝㽞㽟㽠㽡㽢㽣㽤㽥㽦㽧㽨㽩㽪㽫㽬㽭㽮㽯㽰㽱㽲㽳㽴㽵㽶㽷㽸㽹㽺㽻㽼㽽㽾㽿㿀㿁㿂㿃㿄㿅㿆㿇㿈㿉㿊㿋㿌㿍㿎㿏㿐㿑㿒㿓㿔㿕㿖㿗㿘㿙㿚㿛㿜㿝㿞㿟㿠㿡㿢㿣㿤㿥㿦㿧㿨㿩㿪㿫㿬㿭㿮㿯㿰㿱㿲㿳㿴㿵㿶㿷㿸㿹㿺㿻㿼㿽㿾㿿

内で、滋賀県高島市くつぎの森を散策し、語り合つ。七月六日(土) 正午から七日(日) 正午頃まで(一泊二日)。JR湖西線安曇川駅前に集合。参加費八千五百円。申込締切八月二十日⑪総会に参加する⑫八月十五日(土) 十三時半⑬十八時四十分到大阪市立総合生涯学習センター第一研修室(大阪駅前第一ビル五階)で。十五時まで記念講演「森とつぎあふ」講師は元日本森林学会会長・GEN顧問の桜井尚武さん▽いずれも詳細はGENの事務所(由岡一・四・一四・五階、☎六五七六・六二八一、FAX六五七六・六一八一、Eメールアドレスgentree@s4.dion.ne.jp)へ。

■海の写真コンクール

海への関心を高めるため国民の祝日「海の日」(七月十五日)に向けて毎年実施。三十五回目。海運・造船・港湾・湖・川・魚など広く海をテーマにした写真を募集。カラープリント四ツ切(ワイド四ツ切を含む)又はA4サイズ、いずれも平成二十四年七月一日以降に撮影した写真写真に限る(合成や変形で事実と異なる加工作品は不可)。六月十七日(月)必着。主催者による審査(もつぎき、近畿運輸

←昨年の大阪市長賞に輝いた古住和彦さん(港区)の『サンプリングス入港』⑤と、入選した船戸章さん(港区弁天)の『微速前進』。



局長賞(賞金三万円ナトロフィー)、大阪府知事賞(賞金一万円ナトロフィー)、大阪市長賞(同)など入選二十点が選ばれる。発表は七月上旬。展示は七月中旬〜八月中旬に海遊館エントランスビルで(上位十点のみ。全入選作品はHPで閲覧可)。応募及び詳細は主催の公益社団法人近畿海事広報協会(T552・0021 大阪市港区築港二・七・一五港振興ビル204号室、☎六五七三・六三八七、HPアドレスはhttp://kinki-kaiji.sakura.ne.jp)へ。

石碑の文字くつきり

三神社 氏が奉仕の修復作業



→「気持ちよく参拝してほしい」「神社の謂れを地元の人たちに知ってほしい」と三神社の石碑文字を修復する回を2015年2月の10朝

「三神社の石碑を読みやすくしてあげてくれる人がおられますよ」との読者の一報で、五月二十八日朝、同神社(磯路)を訪ねました。大鳥居を潜ってすぐ右手には、同社の謂れが刻まれた背の高い石碑が立っていますが、その文字の洗浄・修復作業をうけたのは向進さん(70)(南田岡)でした。

◆氏の奉仕活動の二環二つ

事情を訊くと、向さんは同社の氏子として十数年前から夫婦で毎朝境内の掃除を続けてきましたが、七・八年前からは「参拝する人たちが気持ちよく過ごせるように」との思いから、氏子仲間と力を合わせて、①社務所などの木の部分(柱など)の洗浄②阪神大震災で亀裂が生じた塀の修復③配電盤修理などの電気工事④末社前の敷石引き上げ⑤手洗い場の排水口の修理―など境内の整備を手がけてきました。そういった奉仕活動の一環として今回、氏子仲間の塩見功さん(八七)(市岡元町)の勧めもあり、北村富司とも相談の上、長年の劣化で文字が読み取りにくくなっていたこの石碑の修復にむかひかたついでにうけた。

◆一字一字にマーカー塗り込む

五月後半の数日を費やして続けてきたという作業は、この日にはほぼ終わりを迎えてしまいましたが、それはどのように進められたのか、工程や技術的ポイントを教えてもらいました。

それによると、実は向さんは五年前にも、寄進者の氏名を列記した石碑四枚の修復を手がけましたが、その時は石質がこるこるだったので、①石碑全体の汚れをタワシと洗剤(ケントク)で落とす②文字面全体に紺色のインクを塗る③文字以外の部分に残った余分なインクをシンナーで拭き取る④文字面を砥石で磨いて仕上げる―という手順で作業したそうです。

しかし今回は石質がざらざらなので、勝手が違い、初めは「どうしたらええのやろ」と戸惑ったそうです。それで、あれこれ試した上で採ったのが、①石碑全体の汚れをタワシと洗剤で落とす(前回と同じ)②刻まれた文字に水溶性の白色マーカーを塗り込む③表面に残った余分なマーカーを数文字ごとに湿布で拭き取る④翌日に防水スプレーを吹きかけてマーカーの白色を定着させる―という手順でした。作業は慎重を

↑白のマーカーを塗り込み、数字文字ごとに表面の汚れを拭き取り、翌日に防水スプレーを吹きかけて定着させる。根気のいる作業だ



期し、失敗しても目立ちにくい裏面の下の方から始めたそうです。文字数は多く、一字一字に丁寧に塗り込んでいく作業は非常な根気を要しました。また水性マーカーを使うため、天候の変化を見定めておく必要もありました。

◆やはり「神さん」が教えてくれた

そうして修復なった文字は、くつきりとは映え、表面の灰色の中にくすんでいた以前とは格段の違いです。同社の六祭神の名前（豊受大神、天照皇大神、住吉大神、齊主大神、熱田大神、秋葉大神）も、建立以来の歴史（元禄十一〜十二年、市岡と左門宗榮により、新田開発の安全と成就を祈って建立され、以後、所有者や所在地を変え、空襲による焼失や区画整

理事業による移転などを経て現在に至る）も、はつきりと読み取れます。

それでも向さんは「こんなことが自分にできるとは思わなかった。前回も今回も、神さんがやり方などを教えてくれた気がします」とあくまで謙虚でした。

◆これから自然体で

向さんは昭和十七年、広島県安芸郡に生まれ、中学卒業後、上阪。電気工事、左官、ブリキ業を経て電気工事業に戻り、七年前まで現役で働いていました。南市岡に住んで三十年近く、同社の氏子になって二十年近く。一連の奉仕活動は、誰に言われるともなく「港区を見守って頂いている神社を少しでもきれいに」という気持ちから自然にやるようになったと言います。

「これから気が付いたことを宮司さんや他の氏子さんと相談しながらやっていきたい」と言いながら、「ついでだから」と、余ったマーカーでお百度石の文字の修復も始めた向さん。木々の緑が陽光に映える初夏の境内。どこまでも「自然体」の穏やかな表情が印象的でした。

スポーツ短信

弁天出身の天ノ若 あまのわが

大相撲夏場所（五月十二〜十八日、東京・両国国技館）で二勝四敗。序二段・東七二枚目、玉ノ井部屋。本名大野清智、三十三歳。得意技は突き押し。平成七年夏場所入門。過去最高位は序二段西二四枚目（平成十一年初場所）。





残した 子や孫たちに 我が人生！

父が興した会社を継ぎましたが、強気の経営が裏目に出てバブルの最中に倒産。ガードマンなどしながら再起を誓い、15年前に別業種ながら起業。苦い経験を糧に、今は順調な経営が続いています。そんな半生を子や孫に残したいと、冊子にしてみました。（60代男性）

お話をききとり、冊子にしてお渡します。

40字（原稿用紙1枚）で千円が標準料金です。

★文書全般の代筆も承ります★

港新聞・飯田編集事務所 ☎6571-4636

熱戦文をの技みがく

区バレー連盟が審判講習会



「スポーツの楽しさは正確・俊敏なジャッジから」相互審判の普及でバレーボールの喜びをみんなのものに」と五月十一日、港スポーツセンターでバレーボールの審判講習会が開かれ、三十六人が審判や記録の技術を学びました（うち記録のみ十人、役員八人）。港区バレーボール連盟主催で毎年この時期に一回に分けて行なわれ、今年で二十三回目。この日は一回のうちの初回（あとの一回は七月十四日）。

◆ハンドシグナルや記録を学ぶ

一つの試合には主審一人、副審二人、線審三（インスマン）四人、記録員一人、点示員一人の計九人から成る審判団が必要ことから、講習内容もそれに沿う形で進められました。

受講者は経験者と初心者に分かれ、①ハンドシグナルの正しい出し方②笛の正しい吹き方③判定が難しいオーバーネット、ボールイン・アウト、ホールディング、ドリブル、ワンタッチの見方④審判団各員の位置の取り方⑤審判団内の連携の仕方などを指導員の模範演技や模擬試合での実践を通じて学びました。

指導には大阪市ママさんバレーボール連盟の

四人が当たり、区連盟の四チーム（しろはと、港南、港晴クラブ、弁天クラブ）が模擬試合を行なつて講習を助けました。

◆審判もチームワークが大事

受講者の一人、坂本静華さん（三三）（市岡）は三回目の参加。友人が市岡小学校PTAチームに所属していたこともあってバレーボールに興味を持ち、三年ほど前から活動。現在はチームのアタッカーとして活躍しています。

「口頭は選手として試合することが多いですが、いざ審判となると気付かないことが多く、まだまだだと痛感しました。選手に気持ち良く試合をしてもらうために、審判も、主審・副審・線審・記録係・点示と連携しなければならず、チームワークが大事だと学びました。一日かけて審判について勉強できる機会は何もないので、貴重な一日でした。今日学んだことを忘れず、これからの審判としての経験に生かしていきたいと思います」と話していました。

◆的確な吹笛を課題に

同じく受講者の一人、清水春美さん（五〇）（港晴）は八回目の参加。中学校のクラブ活動

→バレーボール審判技術の向上をめざして開かれた講習会
 Ⅱ5月12日、港スポーツセンター
 ー（写真）模範試合の記録をつける参加者

←主審・副審・線審・記録・点手と連携が必須な審判技術を学ぶ参加者にと、模擬試合で審判講習を支える選手たち④



から十五年間のブランクを経て、子供の入学を機に港晴小PTAチームでバレーボールを再開。現在はAUNT'Sのアタッカーとして活躍しています。

「何回参加しても、審判台に上がると緊張し、普段出来ていることも出来なくなります。毎回、課題にしているのは、オーバーネット、ホールディング、ドリブルの吹笛を的確に行なうことですが、今回も反省点だらけでした。今後は練習試合などで機会があれば練習させてもらうなどして、試合をスムーズに運べるようになるまで習熟したいと思っています」と話していました。

◆着実に広がる相互審判

港区バレーボール連盟の萩野久美子会長によると、港区では連盟が発足した二十一年前から相互審判（出場チームが交代で審判に当たる）を重視して審判講習を開始。区の東西に分かれたの講習会や地区単位の講習会、記録だけの講習会などを積み重ねる中で、相互審判は着実に広がりを見せているといっています。

同会長は、「他の人の動きを見て自分で工夫・研究する姿勢など、受講者の意識という点ではまだまだ課題はありますが、こうして講習を積み重ねる中で克服されていくでしょう。プレーを楽しむだけでなく、こうした縁の下の努力をお互いがし合うことで、生涯スポーツをみんなのものにしていけたらと思っています」と話していました。

ひとくちPR

（1行11税込1000円）

●何でも書きます、まとめます 手紙・案内・報告・宣伝・司会などの文案。自分史・社史・団体史などの聞き書き。新聞・広報・書籍・会

報などの取材・編集。 ☎6571・4636 港新聞・飯田編集事務所。

●アルバイト急募 週一回の新聞配達と月一回の集金を都合のいい時間に。港民主商工会 ☎210・16、 ☎6571・7867。

●放課後・春夏冬休みは学童保育へ 入所見募集。見学無料・体験OK。家族的雰囲気。区内に二カ所。 ☎6575・0335ありんこ。

●ボクササイズでシェイプアップ！ 月会費五千円（無期限十枚綴りチケット五千円）。入会金一万円を6ヶ月半額。練習日は月水金の十九時半～二十一時半。港ボクシングジムは地下鉄朝潮橋駅前の歩道橋すぐ（三先1・二三・九）。

住ま防犯レベル高め

①ワンドア・ツーロックは常識
②ピッキングに強いカギに交換
③窓にも補助錠の取り付けを

PHS・携帯OK ☎0120-70-5569

(ア) 港カギ防犯センター

安全・安心を
ご提供します

港区港晴1-4-8
(港晴小学校並び)

☆大阪府鋭前技術者防犯協会会員
☆港防犯協会会員 ☆防犯設備士第00-6738号

写実的な画風で魅了

「芽の会」作品展にぎわっ



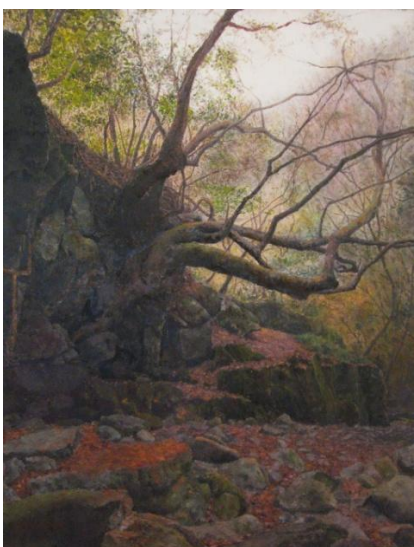
→ 写実的な画風が好評を博した「芽の会」作品展

＝ 5月18日、三先のガレリア・リバーリアで

(写真左端)について語り合う来場者(写真右端)

写実的な画風が来場者を魅了しました。五月十一～十九日に三先の画廊「ガレリア・リバーリア」で開かれた「芽の会」作品展には区内外から多くの人々が鑑賞に訪れ、描く喜び、観る楽しさを語り合っていました。

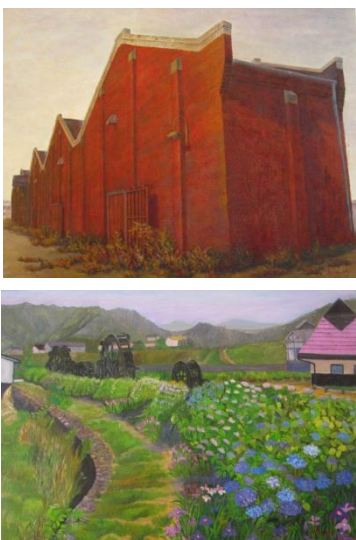
同会は、平和の願いをキャンバスに込めて絵画人生を送ってきた八幡屋の川島恵美子さん(八二)から同画廊で絵画を学ぶ人たちのグループ。毎年、港区役所の区民ギャラリーなどで展示会を開いてきましたが、昨年から同画廊での開催となりました。今回は生徒九人が風景・人物・静物などを題材にした油彩・水彩・パステル・



→ 「自然の生命力が伝わってくる」と来場者を魅了した村古高士さんの油彩画『樹魂』

→ 自然の生命力が伝わってくる」と来場者を魅了した村古高士さんの油彩画『樹魂』

← 村古純子さんの油彩画『倉庫2』④と、井上節子さんの油彩画『アスナロ風車(高知)』④



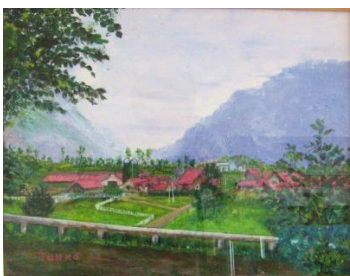
鉛筆スケッチなどによる四十数点を出品。この作品も、川島さんの指導によるリアリズム(写実主義)を真調にした正確なデッサン力、迫力と繊細さを兼ね備えた表現力、そして描く喜びに溢れた個性ある筆致と色づかいが印象的でした。

◆ 古木の生命力を表現

このうち油彩二点と水彩三点を出品した村古高士さん(七二)は、築港後は平成五年に妻の純子さんと同時入会して二十一年。作品の一つ『樹魂』(写真上)に、「自然の生命力が伝わってくる」と来場者の注目が集まっていました。

「この絵は数年前の晩秋の夕暮れ、河内長野の山中に分け入って偶然見つけた光景です。岩

↑中村民子さんの油彩画『船』④と、井上順子さんの油彩画『牧場の朝』④



の間から色んな方向に向かっているように伸びる古木の幹や枝に^{まじ}まじと生命を感じ、目と心にしつかりと焼き付けた上で写真に撮^とって帰りました。川島先生の指導でまず構図を決め、幹や枝一本一本の重なり具合、若や右二つ二つの立体感、落ち葉一枚一枚の質感、夕暮れの薄暗さなどを出するため、色の重ね方や筆の動かし方を工夫しながら、二〜三カ月かけて丁寧に仕上げました。先生からは、絵に対する姿勢をはじめ、構図や色づかい、遠近感や重なり具合の表現など、様々なことを教えて頂いています。特に「色づかいでは、自然界に単純な色は一つもない」とや、先入観に囚われず大胆に色を

選択することで意外な効果が得られることなどを学び、感動しています」と話していました。

◆春の穏やかな空気を表現

また油彩五点と水彩一点を出品した林いずさん(池島)は入会十四年。作品の一つ『安曇野』^{あづみの}「写真左上」に、「春の穏やかな空気が感じられる」と来場者の注目が集まっていました。

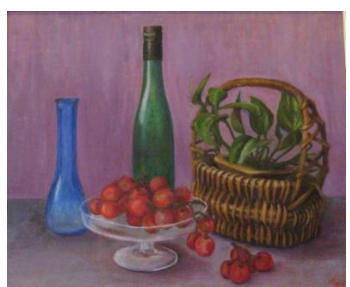
「この作品では木々と木々の重なり具合や山と空の距離感、さらにはその間にある空気感まで出せたらと苦労しました。先生からは、構図

や遠近感や色づかいなど技術的なことと同時に、影の長さや濃さや向きに至るまできっちり描かないと観る人の心に響かないという、絵に対する



↑林いずさんの油彩画『安曇野』④と、仁木公二郎さんの油彩画『大坂城』④

↑丸山和美さんの油彩画『玉葱と袋』④と、濱中和さんの油彩画『透明の仲間』④



る姿勢を教えてくださいました。また積極的に質問することでも歓迎されます。今回、孫を題材に初めて人物に挑戦しましたが、人物画では服の下にある体の肉つきや感触まで感じられるような写実性を出せたらと思っています。楽しみがまた一つ増えましたと話していました。

「芽の会」は昭和五十年に港隣センター(八幡屋)の絵画教室として発足。現在は、二十代から八十代の生徒九人が月二回、土曜の十八〜二十時に画廊「ガレリア・リバーリア」で学んでいます。月謝は四千円。問い合わせは同画廊(三先二・二三・一八、☎七五〇一・四一八八)へ。

永遠の若さテーマに

石炭倉庫で『舞台女優』好評



「永遠の若さをテーマにした幻想的な舞台に惹き込まれました」。五月下旬、波除の自由空間「石炭倉庫」で上演された『舞台女優』が好評を博しました。石炭倉庫を拠点に庶民の優しさや逞しさ、社会的メッセージを込めた演劇を世に問い続けるあながいおまる一座が、二年前に他界した座付き作家・綾羽一紀さんの脚本（原作はJDC出版『ガラスの黙示録』）に収録、あながいおまる座長の演出で熱演。出演は辻美知子さん、ヨッシー原本さんほか。音楽家の大川真一郎さん（クラリネット）と吉田雅代さん（ピアノ）が生演奏で特別出演しました。

◆舞台『月に若返る女優』

—舞台生活八十周年の巡業先・神戸を訪れた村松秋子（あきこ）は八十歳の老女優。オフェーリア、カチューシャなどありとあらゆる女性を演じることで様々な人生を送ってきたと感じている。ホテルの一室に戻った秋子は古いルイヴィトンのトランクを見つけた。中からは手紙の束が、五十一年前の古瀬和彦からの何通もの恋文だった。そこには秋子の役者としての成長と、愛の形が具体化されていく過程が綴られていた。二

人で歩いた神戸の街。「いつか紅葉の京都へ」「上海へは船旅で」——そう言っていた和彦の声や表情までがそこにあるようだ。秋子の夫である演出家から和彦への手紙もあった。なぜ古い手紙や和彦が現われたのか、秋子に何を伝えにきたのか。「余りに楽しいと時間を忘れてしまっの。時間が消えると歳をとらないの」。思い出が次々と甦る。月に若返る秋子。和彦がくれた不老不死の月の兎の不思議な力なのか。いつまでも若さと美しさを失わない女優の、夢のよつな物語は続く——。

◆ファンタジックワールド

懐かしくも甘く切ない思い出の中に夢のような物語が展開する。綾羽さん得意のファンタジックワールド。生演奏をバックに物語が進む実験的な舞台構成。モーツァルトなどの古典音楽が醸し出す気品。いかにも舞台女優を思わせる辻さんの華やかで凛とした姿勢と発声と表情。室内で手紙を読み続ける単調さを単調と感じさせない起伏豊かな台詞回しと身のこなし。老女優が次第に若返り、最後に艶やかにドレスアップした時の息を呑むような美しさ。そうした舞

→ファンタジックな舞台が好評だった『舞台女優』は5月下旬、波除の石炭倉庫で写真撮影。トロン・秋子を演じる辻美知子さん

台上の空気のすべてが幻想的で、観る者をしばし別世界に漂わせてくれました。

そして、老いも病気も死もない理想世界への憧れを通して、物欲と暴力と腐敗が支配するこの世の不条理が自らと浮かび上がり、どの芝居からも人生や世の在り方を考えてもらおうという二座の姿勢を感じることができました。

演劇ガイド

●あながいおまるの一座『上海露土物語 星の船』

フリースペース

波除の自由空間「石炭倉庫」を拠点に演劇活動を続ける同一座によるスタジオ公演。上海と日本現在の過去を舞台にしたミニ・ミュージカル。「人を好きになって愛が大きくなってくみ世界がやさしさに包まれたらどんなにすばらしいだろう」といつメッセー지가心を打つ。原作：綾羽一紀。作曲：西川慶。編曲：リピー

ト山中。演出：あながいおまる。出演：西川慶

ゆづり、ヨシシー原本、あながいおまる。七月七日(日)十二時、十五時の二回。料金は前売二千円、当日千五百円。問い合わせ・申し込みは会場の石炭倉庫(波除六・五・一八、JR

并大町駅から国道四三号を北へ直進、安治川堤防突き当たり右すべ。☎六五八一・〇六八四

FAX六五八一・二六七〇。チケット専用フリーダイヤル〇二〇・三三四一・三九。Eメール:theater@sekitan-souk o.c.o.mへ。

ライブ情報

●八幡屋出身ロックドフマー 桐田勝治さん 日

きりたかつじ

本のビジュアル系ハードロックバンドのトップを走り続ける人気バンドに所属。周りを元気づける灯台のようなミュージシャンに「と演奏に磨き。港中学校出身▽所属バンド「ガーゴイル」の十五枚目のアルバム『奇獣』好評(「愚鈍」の命の傷「夢果実」など十一曲、三二五〇円、☎〇三・三三八一・九一八〇ファーストセル)

▽六月二十五日(火)十九時からなばHatchで所属バンド「ザ・クロマニヨンス」のツアーライブに出演予定(☎六三三七・四四〇〇サウンドクリエーター)▽七月十日(土)十八時から江坂ミューズ(☎六三八七・〇二〇三)でガーゴイル十八周年ライブに出演予定。

↑桐田勝治さん(右)と山口もえさん(左)



●八幡屋在住の不思議ミュージシャン・山口もえさん 懐かしい童謡・唱歌や郷愁誘つ創作

曲を独特のハスキーボイスで歌つ▽六月十八日(火)、同月中の閉鎖が決まっている「通天閣歌謡劇場」の最終イベントに「通天閣のモダンデユオ 雛芥子」として出演予定。他に通天閣の歌姫こと叶麗子さんにも出演。正午〜十四時二十分と十四時五十分〜十七時三十分の二回(十一時開場全席自由、入替なし、千五百円)。

雛芥子の出演は正午と十四時五十分。同劇場は浪速区恵美須東一・一八・六 通天閣地下一階。JR環状線「新今宮」駅歩十分、地下鉄「恵美須町」駅歩三分、同御堂筋線「動物園前」駅歩十分、市バス「地下鉄恵美須町」停歩三分。☎六六四九・八六三三松竹芸能(平日十〜十九時)。

厳しい現実を生き抜く

在日朝鮮人少女を描く

李慶子『バイバイ。』

「受験戦争や親の失業など、厳しい現実を生きる日本の子供々に、困難に負けへん生き方を教えてくれる本や」(区内・六十代男性)「在日朝鮮人の置かれた状況が昔より深刻になっている中、民族と民族、国と国がどう付き合っていくべきかを考えさせられた」(区内・五十代女性)。在日朝鮮児童文学者 李慶子さんが二〇〇一年に著した『バイバイ。』Ⅱ写真Ⅱは、在日朝鮮人少女が差別に心を揺らしながらも成長し、民族意識に目覚めていく過程を温かな視点で描いた作品です。〇二年日本児童文学者協会新人賞を受賞。今、港区でも読まれ、反響を呼んでいます。

——一九六〇年代。「和」は福井県の貧しい朝鮮人家族の三人姉妹の次女で小学五年生。父親は戦前、徴用で日本に送り込まれ、今は建設

関係の仕事に就いている。十八歳で日本に渡って来たという母親はチヨリの縫い物で家計を助けている。両親とも日本語の読み書きができない。親友のスナちゃんは今所でホルモン屋を営む朝鮮人の娘。そんな人たちに囲まれ、和は様々な出来事を見聞する。

父親がささやかな楽しみのために作ったごくは税務署の立ち入り検査で捨てられた上、罰金を科される。知り合いの朝鮮人青年は学校に行けなかったためにグしてヤクザになった。その母親は鉄くすやボロを集めて生きている。中学生の姉は法律の道に進むと勉強に励むが「朝鮮人は弁護士になれない」という壁にぶつかり、十四歳になって外国人登録をする際には指



紋を取られて「犯罪者扱い」され、屈辱を味わう。友だちとの映画鑑賞の帰り道、リヤカーを引くおばさんに朝鮮なまりで声をかけられた和は、恥ずかしさに知らん顔をしてしまふ。スナちゃんが朝鮮人であることを理由にいじめられていた現場からも逃げてしまふ、自己嫌悪に陥る。

しかし父や母の遅くも飾り気のない暮らしぶりや、足を洗って朝鮮語を学び始めた青年の生き様などに触れ、朝鮮人として胸を張って生きていこうと考える始める。授業参観で父親が受付名簿に書いた字をクラスの男子がからかった時、夢中でつかつかっていく。そして、事情で大阪へ越すことになり、「世界一のホルモン屋になるんや」と夢を語るスナちゃんとは手を握り合って別れた。「バイバイやな」。それは昨日までの自分の訣別宣言でもあった。

下田昌克さんの鉛筆画の挿絵が、物語の素朴で温かな味わいを深めています。

(株)アトーン発行。A5判一九〇頁、二二〇〇円十税。港区ではオリオン書房(八幡屋一六・一〇一、TEL・FAX六五七二・二二〇四)などで取り寄せていただけます。

港区民の手記をもとに、地元在住の作家・青木健一さんがつづいた当地下ノマ。区内の地名や人名が登場しますが、総じてフィクションです。第一作は、戦争の悲劇を乗り越え、逞しく生きてきた女性、村岡弥栄子の物語――。

弥栄子の空 (五)

（前まで）九十を過ぎた弥栄子は一人の夫

が眠る墓を月一度訪れる。最初の夫・満雄との新婚生活は半年後、満雄の入隊で破られた。夫の出征後、父母のいる港区に身を寄せたが、昭和十年の太平洋襲を生き延び、終戦を経て夫は戻らなかった。昭和二十二年によつて夫の戦死を知った弥栄子は生きるため失対事業に携わる。その現場で「番目の夫・二」と知り合い結婚したが、夫は十年後に入院。再び働きに出た。二人の息子を巣立たせ、父母や夫を見送った今心優しい孫の訪問が何よりの楽しみだ――

「長いようで、短かったなあ」。振り返った墓石は、まだきらきらと光っていた。「お父ちゃん、お母ちゃん、満雄さん、二さん……ほんなら、

帰るわな」。その声に出した弥栄子の脳裏を、ひととき大切な色を帯びて過つたものがあつた。最初の夫・満雄との面会所での別れの光景だつた。あの日もこんな空やつた。もついつへんあの時に戻りたい！ あの胸にしがみ付きたい



！夢のようやつた生活をもついつへんしてみたい！ 私の青春を返してほしい」。正直な気持ちだつた。そして、それは同時に「番目の夫・二」この決して幸せとはいえなかつた三十二年間の記憶をも、限らない愛おしさと共に甦らせてくれた。みな戦争が悪いんや。二人ともええ人やつた。よつ頑張つてくれたなあ。ありがとつ、ほんまにありがとつ。

（ほれかけた涙を叱るよつに、弥栄子はもつ一度声に出した。「満雄さん、二さん、私、忘れへんで。いつまでも一緒や。二人とも、私のこつ、ずっと見守つてや。いつも私を抱いててや。これからも、頑張つて生きるから。戦争なんかに、負けてたまるかいい！」。

正午の太陽に墓地の空気がひととき白くつた。毗のかすかな湿りは、もつ乾いていた。

（おわり）

× × × × × ×

戦前・戦中・戦後の思い出など、物語に残しておきたいといつて希望があればお知らせ下さい。聴き取りなどで内容を調整の上、フィクションとして紙上で発表します。〈編集〉

平和のため

戦争体験

語り継ごう

今月の語り部

いぶししょうぞう

猪伏昌二さん(元田中佳民)②



前記あらすじ 昭和四(一九一九)年、北朝

鮮の港町・元山に生まれた私は、中国大陸での
戦火拡大の中、満州(現・中国東北部)東部の
町・図們、次いで延吉で育った。米英を相手に

「大東亜戦争」が始まる中で中学校に入学。戦

陣訓の暗誦、銃剣術の訓練、勤労奉仕など戦争

一色の学校生活を送った。陸軍士官学校受験は

肋膜のため不合格。同級生は陸軍の燃料つくり

に、下級生は開拓団に動員。「神風」を信じて

物資窮乏に耐え続けたが、戦局好転のないまま

昭和二十(一九四五)年八月、突如のソ連参戦

に緊張が走り、「皇国日本の敗北」を告げる

玉音放送が流れた。〈本文は回想録『平和の

空よ永遠に』から本紙が抜粋・再構成〉

敗戦で空気が一変 無政府状態に

食糧難 燃える日本人街

八月十五日。正午から流れた玉音放送に、

「戦争は終わったのか」「いやデマかも分から

ん」「神国日本は負けるわけがない」「関東軍は

国境でソ連の前進を阻止している」等々、色々

な風評が流れました。敗戦かどうかは別にして、

戦争が終わったことだけは確かとなりました。

いずれにしてもその夜は、当時十八歳の私を含

めて皆が、放心状態の中にも、肩の荷が下りた

ような気分であったのを覚えています。

灯火管制用の覆いも不要となりました。裸電

球の明かりが外に漏れないよう、外側は黒い布

で、内側は赤いネルで二重に覆い、照明範囲を

調整できるよう絞りも付いていました。各家庭

で一生懸命に縫い上げ、何年も働いてくれただ

けに愛着もあり、取り外すのに一抹の淋しさを

感じたのも事実でした。

一方、敗戦当日には、凶悪犯から思想犯に至

るまで、囚人全てが刑務所から解放されました。

一種の無政府状態になったのですが、無罪放免

となった人たちは恐らく天にも上る歓びを感

じたことでしょう。が、同時に、それまで溜ま

りに溜まった民族の怨念は、その直後から復

讐の炎となって爆発的に膨れ上がっていくこ

とになるのです。

◆八〇四部隊に避難

一夜明けて十八日。市内の空気が一変しまし

た。日本人が単独で行動することは危険になっ

たのです。そして以後、異国で戦争に負けた悲

哀と悲慘をこれでもかと見せ付けられることにな

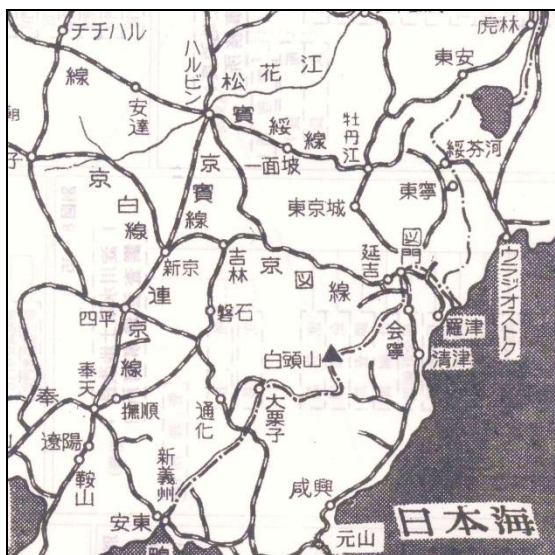
ります。傲慢であった軍国主義の権威はもの

の見事に剥がされましたが、その一方で無辜の邦人が敗者の烙印を押され、非戦闘員にも拘らず、軍人や警察、憲兵が加えてきた圧制の返り討ちを受ける運命に立たされたのです。

その日の午後「日本人は全員六〇四部隊に避難せよ」との緊急の連絡が隣組からあり、身の回りの物を持てるだけ持って部隊の広場に集まりました。病人、老人、赤子、それに、周辺地に入植していた開拓団の人たちもいました。何十人も離れた所から飲まず食わずで避難して来たのでしよう。みな生気がなく、目もつろで、何かに怯えている様子でした。

「この避難先では食糧の備蓄もなく、その日から食つための戦いが始まりました。銀行は閉鎖されて預金を引き出すこともできず、その時持っているだけが財産でした。加えて食料品は急激な値上がりを始め、在留邦人の生活はこの日を境に極限の苦しさへ転げ落ちていったのです。とはいえ、六〇四部隊への結集は大勢の居留民が顔を合わせたところから、どこへ帰るのかわからず、一緒に頑張らないうつなで同じ境涯の者ばかりの声のかげろいや励ましの中にもあ

←満州の部分図。生まれ故郷の元山、少年期を過ごした図們、延吉などの地名が見える。



り、どこへ消えたか分からぬ軍隊を尻目に、皆の世話役を買って出る人もいました。

◆シベリヤの士となった級友

やがて日も暮れた頃、間島中学校の同窓生・田中彰君に出会いました。彼は胸をやられたとかで顔色が悪く、話す言葉も弱々しいものでした。前まで述べたように、病後の私を除く間島中学校四年生全員(四十七名)はこの年の四月、学徒動員令により四平街の陸軍航空燃料廠二

三八部隊へ通年動員され、後方支援のため航空燃料(松根油)製造に尽力していました。軍隊同様の苛酷な毎日に堪えられたのは、級友がいたからでしょう。が、八月九日に突如ソ連が参戦し、十五日に終戦。虚脱状態の中、部隊内の整理や書類焼却の使役に追われているうちにソ連軍の侵攻が始まったといふことでした。

学徒のうち四人の朝鮮半島出身者は親が迎えに来て延吉に帰ることができましたが、残りは満州内を移動してソ連軍の使役に従事。十月上旬、「脱走兵の穴を埋めるため」といふことで背の高い者から順に二十八名が選ばれました。「仕事がすんだら先に帰国できる」「ソ連兵には十八歳だと嘘をつくように」と日本の旧陸軍幹部に言われたといえます(実際にはみな十八歳前後でした)。が、いざ出発すると列車は北へ走り出し、着いた先はシベリヤでした。そして、酷寒の地での重労働の中、二人がシベリヤの士となりました。その一人、斎藤洋一君は、早く帰りたい一心から、二十八名選抜の際、煉瓦の上に乘って背を高く見せたといいます。もう一人の越智昭君は連行中に国境の町・黒河で凍

傷に罹り、陸軍病院で亡くなりました。

再会した田中君は、四平街に動員されたものの、途中で病気になるって延吉へ帰って来た三人のうちの一人でした。金沢節雄君も同じように延吉に帰って来たようですが、会うことはありませんでした。しかし、この偶然の再会も虚しく、その後、両君とも越え出来ずに亡くなったとあとで聞きました。

ともあれ、その夜は野営となったため、俄かづくりの竈で食事の準備をしましたが、なかなか順番が回ってきません。やっと使えるようになって、食器類を持って来ていないので、薬缶で味噌汁を作り、それでお茶も沸かししました。何を食べたかは覚えていませんが、外気が冷え込んでくる中、夜露に濡れながら、毛布をかぶって休んだことだけは覚えています。

◆始まった略奪 日本人街に火の手

一方、市街地では我々が避難した後、日本人街は無人ととなり、無政府状態になっていました。鮮・満両民族の人たちが我先に、片っ端から略奪を始めたのです。大人から小さい子供まで、リヤカーや荷車で乗り込み、金槌や棍棒など

色々な道具を手に、大声で喚きながら、扉を壊し、窓ガラスを叩き割り、持てるだけ持ち出し、盗る物がなくなれば次の家に移動しました。彼らが去ったあとの日本人街は、ガラスの破片と紙くずが散乱しているだけで、文字通り、もぬけの殻でした。

夜になって、野営していた六〇四部隊から日本人街を見ると、そこに火の手が上がっていました。それは正に「大日本帝国」の終焉を告げる光景のように思えました。

◆現地人が移動を妨害

翌十七日は移動するともなく、軍隊からの指示待ちとなりました。

十八日、軍からトラックが用意され、順次分乗して延吉小学校へ移動することになりました。トラックは薪を燃料にしたニッサンの車で、前の部分はずんばらぶらになっており、走り出すまでには時間がかかりました。二十数人ずつを乗せてのピストン運転が始まりました。距離は三キロにも満たないのに随分と時間がかかるので、どつしたのかと不審に思っていました。自分たちの順番が来て判りました。六〇四部隊から

市内に通ずる舗装道路には大きな石ころが何十個も転がしてあり、角材や電信柱が何本も斜めに放置されていたのです。現地人の仕業でした。沿道では何やら見慣れぬ旗を振って「万歳、万歳」とはしゃいでいます。よく見ると、日の丸の赤の下半分を墨で塗り潰し、四方に黒い線を三本ずつ短く引いていました。それは朝鮮(韓国)の旗、太極旗でした。

そんな中、障害物を一つずつ乗り越える度に車のバランスが崩れて凄く揺れとなり、腰を抜かすか叩き付けられるかのような衝撃に耐えながら、ようやく延吉小学校に辿り着きました。

◆ソ連軍の進入

学校の講堂では各家族の居場所が指定され、新しい生活が始まりました。私は外の様子を知ろうと、講堂を出て市内のメインストリートへ出てみました。すると、偶然にもソ連軍の本隊が重戦車を先頭に北から市内へ進入してくる場面に出くわしたのです。そして、これが我々日本人に新たな悲劇をもたらすことになることは、その時はまだ思ってもみませんでした。

ミニ文化案内

●交通科学博物館「モデルシップ友の会作品展」

紙類だけで作成した緻密な船のペーパークラフト作品展。海上保安庁の「りゅうきゅう」(ひだり)「そつや」などの大型巡視船や巡視艇、測量船、また商船や貨物船、さらには大阪港をパレードする小型巡視艇のジオフマも。七月七日～八月三十一日▽他に「おとし列車と貴賓室」(皇族が乗車される「おとし列車」や休憩される「貴賓室」に関する写真や資料を展示。七月七日まで開催中)「京都大学鉄道研究会写真展」(鉄道のある情



「モデルシップ友の会作品展」に展示予定の測

量船「昭洋」の設置船「やんが」④

景(普段の生活の中で目にする鉄道関連写真四十二点。うち十七点は空がテーマ。六月十三日まで開催中)「駅員さんがやって来た!」(七夕の日に弁天町、西九条、福島、ユニバーサルシティ駅の駅員さんを迎えて「イコちゃんを探せ!」(子ども制服体験「ストップ!」君の踏切教室「ぬりえコーナー」ミニ環状線運転会「イコちゃんがつてくる!」などのイベント。七月六七日の十時半～十五時)などの催しも▽十三七時入館、月曜休館(祝日なら開館)翌火曜休、火曜も祝日なら振替休なし、春・夏休みは開館。



「おとし列車と貴賓室」に展示されている写真

「おとし列車を引くC51形100号機」⑤と

「京都大学鉄道研究会写真展」に展示されている「大都会の幾何学模様」(日本書博式撮影)⑥

高校生以上四百円、四歳～中学生五百円。JR弁天町駅すべ。 ☎ 〇五八八・一五七七。

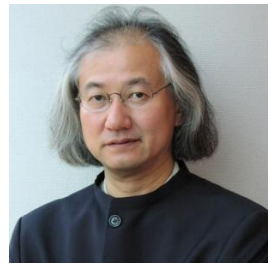
●海図書館

①図書展示「食育の本」展(六月三十日(日)まで開催中。心豊かな食生活のため、食に関心を持ってもらえるような本を集めて展示)②「図書展示」おめでとう世界文化遺産登録 富山と登山の本「展」(七月三十一日まで開催中。浮世絵に描かれたり、万葉集に詠まれたりと、遥か昔から日本人に「よなく愛され、このほど世界文化遺産に登録された「富山」に関する本を展示)③おたのしみ会(毎週水曜十五時半～十六時、じゅつたんコーナーで。

幼児を対象に、絵本の読み聞かせや紙芝居、パネルシアター、手遊びなど。申込不要④あかちゃんのおたのしみ会(毎月第一金曜日(七月は五日)の十一時～十一時半、じゅつたんコーナーで。赤ちゃんと保護者を対象に、赤ちゃんが絵本に親しめるよう工夫。申込不要) ☎ 〇六五七六・一三四六。

●関西フィルハーモニー管弦楽団「第249回定期演奏会」

「矢崎彦太郎の十八番」(おはこ)近代フランス音楽の深層と題し、フランス・プーラン



ク没後五十年を記念して「牝鹿^{めしか}」と「オルガン、弦楽とティンパニのための協奏曲 ト短調」を、そしてアーネスト・ショーンソンの「交響曲 変ロ長調 作品20」を贈る。指揮は矢崎彦太郎^{やまき ひこたろう}。写真上、オルガン独奏は青木早希^{あき さき}。同下。七月十八日(木)十九時からザ・シンフォニーホール(JR大阪環状線「福島駅」から北へ歩約七分)で。十八時四十分から指揮者フレートク。S席五千元、A席四千元、B席二千元、学生席千円(全席指定・消費税込)。☎六五七七・一三三八。

●弁天町市民学習センター・お役立ちパソコン

ひびは「二日体験—ムービーメーカー講座」

画像や動画の切り取り・つなぎ合わせなどの編集ができる「ムービーメーカー」で、写真データをを使ってスライドショーや編集などの操作を学ぶ。パソコンはウィンドウズXPを使用。六月二十八日(金)の十時〜十二時半(午前の部)

と十四時〜十八時半(午後の部)。受講料千円(教材費込み)。定員各十八名(先着順)。対象は文字入力・マウス操作のできる人。持ち物は筆記用具と写真データ(十枚程度をUSBメモリに入れて。持っていない人には主催者のデータを使用)。申込締切は八月二十七日(木)(定員に余裕ある場合は当日申し込み可)。講師はシニアパソコン研究会。申込は電話か来館で。☎六五七七・一四三〇、FAX六五七七・一四三三。

●弁天町市民学習センター「オーク弁天寄席」

関西を中心に活躍する中堅・若手芸人による定例地域寄席。二二三回目。六月二十八日(水)十九時〜二十時半。落語、講談など多彩な出し物で人気。出演は笑福亭學光^{しやふけい まなみつ}(徳島出身の落語家)、写真上、旭堂南麟^{あしたう なんりん}(大阪出身の講談師)同下をレギュラーに、今回は笑福亭枝鶴^{しやふけい へでかく}、桂



さんざ三河も。オーク弁天寄席の会と同センターが主催、ORC200店舗会が協賛、ラジオ大阪が協力。入場無料。当日先着百二十名。☎六五七七・一四三〇。

●弁天町市民学習センター・弁天シネマ倶楽部

『山河遙かなり』

「心に残る名作映画を低料金で多くの市民に」と同センターが企画した上映会の二一九回目。戦争の犠牲となり傷ついた子ども達を哀しいほど忠実に描き、その心の再生を見守るように温かく映し出した感動のヒューマンドラマ。写真上、第一 次世界大戦直後、アメリカ占領下のドイツ。強制収容所から解放され、難民救済機関によって保護された少年カレル。戦争によって心を打ち砕かれた彼は、言葉も感情も失い、最愛の母親の記憶さえ無くし



ていた。救済所の人が味方であることも分からず、「殺される」という恐怖心から脱走してしまつ。空腹のまま、当てもなくがれきの街をさまよつカレルにパンを差し出す一人の青年がいた。アメリカ兵のステイプ。心優しい彼との出会いがカレルを大きく変えてゆく。監督はフレッド・ジンネマン。出演はイワン・ヤンドル、モンゴメリー・クリフト他。一九四八年アメリカ映画。モノクロ、一〇四分。七月二十日（土）十時と十四時から講堂で。料金は一人二回六百元（前売五百円）。定員は各回先着百名。

当日十一時四十五分頃からロビーで無料ライブ（ハーモニカ演奏）を予定。問い合わせは六八五七七・一四二〇同センターへ。

●市岡納涼寄席 地元住民が運営する地域寄席。七月二日（火）十九時半から二十時四十分ごろまで西明寺（市岡二一・四、六八五七二・五



八二八で。無料（茶・菓子付き）。先着八十名。市岡在住の落語家・桂福丸（桂春団治一門）Ⅱ写真上Ⅱの落語Ⅱ席Ⅱ三先在住のマジシャン・KibittoⅡ同下Ⅱのマジックを楽しむ。桂福丸は灘中・灘高・京都太卒。英語落語でアメリカ公演。二〇〇七年福岡団治入門。天満天神警昌亭やTV番組に出演。KibittoはUSJなど商業施設イベントやラジオ番組に出演する実力派エンターテイナー。

●シネ・ヌーヴォ「生誕二一〇年・没後五〇年記念巨匠・小津安 郎の世界」二〇二二年の

「サイト・アンド・サウンド」誌が実施した世界の映画監督二五八人による「世界映画史上ベスト作品」投票で『東京物語』が一位に選出されるなど、世界レベルで評価が高まる巨匠・小



→世界レベルで評価が高まる小津安 郎

←昭和の不況を喜劇調で描いて時代を風刺した『大学は出たけれど』（一九二九年）④と、緻密な演出で、戦争と貞操の悲哀を描いた復員第2作『風の中の牝鷄』（一九四八年）④



津安 郎監督（一九〇二・一九六三）。その生誕二一〇年、没後五〇年を記念し、日本の人々心を独自の細やかな視点で捉え続けた全五十四本の中から代表的な三十七本を上映して偉大な足跡を辿る。上映期間は八月二十日（土）〜七月十九日（金）。上映作品は『学生ロマンス若き日』『和製喧嘩友達』『朗かに歩め』『大学は出たけれど』『落第はしたけれど』『突貫小僧』『夜の妻』『淑女と髯』『東京の合唱』『コープス』『大人を見る繪本』生まれてはみたけれど』『青春の夢いまいづこ』『東京の女』『母を恋はずや』

← 崩れゆく戦後の家族関係を描いて小津作品の最高峰とされる『東京物語』(1953年)④
と、娘を嫁に出す父親の心情を細やかに描写した遺作『秋刀魚の味』(1962年)⑤



『非常線の女』『出来ころ』『浮草物語』『東京の宿』『鏡獅子』『淑女は何を忘れたか』『一人息子』『田家の兄妹』『父ありき』『長屋紳士録』『風の中の牝鷄』『晩春』『宗方姉妹』『麦秋』『お茶漬の味』『東京物語』『早春』『東京暮色』『彼岸花』『お早よう』『浮草』『秋日和』『小早川家の秋』『秋刀魚の味』。当日一般1400円。前売五回券(五千円)、期間中フリーパス券(二万七千円)など割引券あり。上映時間など詳細は同館(地下鉄九条⑥出口)歩三分 〇六五八一一四二六へ。

●ガットネロ 市岡在住の社会派シャンソン歌手・松浦田美子さん「写真上」主宰の音楽喫茶。

毎月様々な企画。①HAMORRIBEE(はもりべ)のつた★カフェ第三回②六月二十二日

③金 十五時(完売)と十九時。若手テノール

デュオ(中川公志・小原有貴)④回ト⑤が日本の懐かしい歌を歌う⑥ピアノ⑦古く優美。会費

各 千五百円(一飲物付、定員十五人、要予約)②クラシック・カフェ第三十四回③七月五日

④金 十九時。『夏の夕べはJAZZ!』と題し、Yu-Ma(ヴァイオリン)と綾部美和子(ピアノ)がヤング、ウオーレン、レヴァン

トなどを演奏。会費 千円(定員十五人、要予約)▽ガットネロは天王寺区上本町ハ一一三

七、地下鉄谷町九丁自駅⑥出口、〇六七セ七、〇〇二。



読者プレゼント

※いずれもハガキに『月』の感想とプレゼント名を書いて200日必着で港新聞へ。

●交通科学博物館(三三文化案内) 招待券をへア2組に。

●関西フィル「第249回定期演奏会」(三三文化案内) 招待券をへア1組に。

●弁天シネマ倶楽部『山河遙かなり』(三三文化案内) 招待券をへア2組に。

●あながいおまる一座『上海紳士物語 星の船』(演劇カイド) 招待券をへア2組に。

●児童書『バイバイ。』(読者が推せん・図書カイド)を1名様に。

子や孫に自分の人生をのこそう!

お話をききとり、冊子にしてお渡しします。

島根県から上阪し、金属系企業で働きながら労働運動にも力を注いできました。全国的な運動退潮の中、10数年前に第一線を退きましたが、この間の経験と教訓がいつの日か運動の再興に役立てばとの思いから港新聞に相談し、冊子にしてもらいました。(70代男性)

★文書全般の代筆も承ります★

港新聞・飯田編集事務所 〇六五七1-4636

400字(原稿用紙1枚)で千円が標準料金です。